

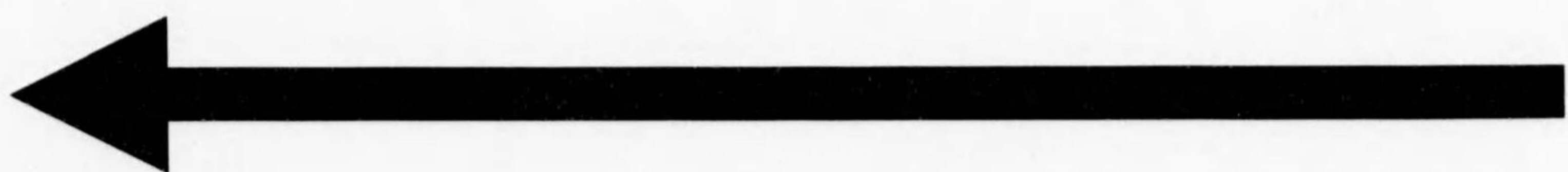


南支那及南洋調查第一百七十一輯

緬甸米

臺灣總督官房調查課

始



14.25-478



凡例

一、本書は、華南銀行關貢支店の調査に係るものを同行の承認を得て當課より上梓せるものである。

一、本書中緬甸米とあるは、一般に關貢米と稱するもので、是れは其輸出港に因んで付けられた名稱であるが、本編には前者の名稱に據つてゐる。

昭和四年五月

臺灣總督官房調査課

發行所寄贈本



緬甸米

目次

一	世界に於ける米の産額	一頁
二	印度に於ける米産額及他作物豊凶と輸出餘力の關係	二
三	印度米作に於ける天候の影響	三
四	印度の稻の栽培法	四
五	印度の米輸出に對する緬甸州の地位	五
六	緬甸米の作況	六
七	緬甸米輸出港としての蘭貢港	一〇
八	緬甸に於ける米の産額	一三
九	粃	一四



一五 (一) 運送による區別

一六 (二) 品質による種別

一六 イ、ナツセン種及ナツキヤク種

一七 ロ、ミードン種

一七 A サビネ・ミードン B カウチー・ミードン C カナントウ・ミードン

一七 D ダラ・サイド・ミードン E カウチー F ナクレンチー G カラチー

一七 H スガンヂー I 糯米

二 (三) 粳の取引状態

一〇 米

一五 (一) ナツセン種

一五 イ、玄米

一五 A. 5 Parts Cargo Rice B. 16 Parts Cargo Rice

一五 C. 32 Parts Cargo Rice D. 20% Loonzain

一六 ロ、OSQ

一六 ハ、Low Milling Rice

一七 ロ、B M S

一七 ホ、S M S

一七 ヲ、S M, S M Q

一七 ト、S Q

一七 チ、Europe No. 3

一七 リ、Europe No. 2

一七 ス、Europe No. 0

一七 ル、Europe No. 1

一七 (二) ミードン種

一七 イ、20% Meedong Loonzain

一七 ロ、Meedong Clean Loonzain

一七 ハ、Meedong Bazar

一七 ニ、M D S Q

一七 ホ、Meedong Europe No. 2 Quality

一七 ヲ、Wakema Meedong Europe No. 2

ト、Kalagyi Rice 三六

チ、玄米 三六

リ、Kalagyi Bazaar Quality 三九

ヌ、Kalagyi SQ Quality 三九

ル、Kalagyi Europe No. 2 Quality 三九

ヲ、Kalagyi Europe No. 1 Quality 四〇

ワ、Boiled Rice 四〇

カ、Mill Sugandhi 及 Puttoo Rice 四一

一 碎米又は小米 四一

(一) 精白による等級 四一

イ、A Class 四二

ロ、B Class 四二

ハ、Number Class 四三

ニ、C Class 四三

ホ、Cargo Broken 四三

(二) 碎米の大者 四三

(三) 小米の種類 四五

イ、Extra Broken Rice 四五

ロ、第一號碎米 四六

ハ、第二號碎米 四六

ニ、第三號碎米 四七

ホ、第四號碎米 四七

ヘ、第五號、第六號、第七號小米 四八

(四) 碎米の品質に就て 四九

 A 白き事 B サイズの一定せる事 C 夾雜物なき事

一 糠 五〇

イ、Cow Bran 五一

ロ、No. 2 Rice Bran 五一

目次 五

ハ、No. 1 Rice Bran 五二
 ニ、Boiled Rice Bran 五二
一三 米糠の取引状態 五三
一四 蘭貢に於ける米の取引状態(約定より積出迄) 五四
 (一) 買付 五四
 イ、ブローカー 五四
 契約書 五五
 (二) Milling Notice の發行 五七
 (三) Milling Notice を受取りたる場合 五八
 精米 五九
 (四) 1. Grain 2. Milling 3. Coody Separation 4. 糠取り 六〇
 品質を Pass せる場合 六一
 品質不良なる場合 六二
 (七) イ、Milling Surveyer 六六

ロ、Independent Surveyer 六六
 ハ、Shipping Surveyer 六六
 ニ、Individual Surveyer 六九
 (八) 蘭貢に於ける精米所名及 Corner Mark 六九
 イ、カナントウ ロ、カマカシ ハ、ダラ ニ、ケミンダン
 ホ、カマヨウ ヘ、インセン ト、ブズンドン

一五 輸出先及之を取扱ふ主なる航路並輸出當業者 七五

緬甸米

一 世界に於ける米の産額

四億の民を擁すと稱せらるゝ支那に於ては、其の國民の大部分が米を常食とするものなれば、必ずや大なる消費と同時に大なる産額ある事は論を俟たざる處なれ共、今日に至る迄同國には完全なる統計なく、世界の米産額推定上大いに困難を感ずるところにして、支那米産額の推定を千五百萬噸となすと三千萬噸となすに依りて、世界米の年産額も七千五百萬噸より九千萬噸と推定せらる。

今約九千萬噸としてその分布状態を見れば左の如し。

國 別	産 額	國 別	産 額
British India (Including Native State)	三五〇〇〇〇〇〇	French Indo-china	三五〇〇〇〇〇
China	三〇〇〇〇〇〇〇	Siam	二五〇〇〇〇〇
Japan Empire (Including Korea & Formosa)	一〇六〇〇〇〇〇	United States of America	五二〇〇〇〇〇
Netherland East India (Including Java & Sumatra)	四二五〇〇〇〇	Philippine Island	五〇〇〇〇〇〇

一 世界に於ける米の産額

二 印度に於ける米産額及他作物豊凶輸出餘力の關係

Madagascar	四五〇、〇〇〇	Malaya	一二三、〇〇〇
Egypt	三六六、〇〇〇	British Guinea	四一、〇〇〇
Italy	三二〇、〇〇〇	Bokhara and Khiva	四〇、〇〇〇
Brazil	二五〇、〇〇〇	Peru	四〇、〇〇〇
Persia	二五〇、〇〇〇	Mesopotamia	三〇、〇〇〇
Ceylon	一七二、〇〇〇	Others	四五、〇〇〇
Transcaucasia & Russian Turkestan	一七〇、〇〇〇	合計	八九、三一七、〇〇〇
Spain	一五〇、〇〇〇		

備考 右噸數ハ概穀、米糠を除きたる白米の數量ナリ

二 印度に於ける米産額及他作物豊凶輸出餘力の關係

印度の全面積は百七十六萬平方哩にして、人口三億有餘我が國に比すれば其の面積十倍に相當す。英領印度なる名稱は、印度總督或は知事又は總督に隸屬する官吏によりて統治せらるゝ英國領土内に於ける總ての土地を意味し、印度とは英領印度竝に土人の王に屬する土人州の各州を總稱するものなり。

英領印度に於ける米の生産額は、土人州に於ける統計不備と、印度政廳に於て實收額を調査することなく、其の發表する數は收穫豫想に過ぎざるとにより、收穫の實數を知得し能はざるも、印度

農業統計及び其の他の調査數を綜合すれば、最近三千五百萬噸の平均數に達し、内年々輸出する數量は年の豊凶によりて著しき増減ありと雖、年々約二百五十萬噸（我が國總生産額の約五分の一）に上り、世界に於ける最大米産國たるは云ふ迄もなきことなるが、其の海外輸出數量に於ても亦第一位にあり。

而して英領印度は、前述の如く世界最大の米産國たるの故を以て、印度人は我が國人の如く、總て米食を爲すものゝ如くに解するものもあるも、事實は然らずして、米は一般に贅澤なる食料品として取扱はれ、米作住民若くは都會居住者の食用に供せらるゝに過ぎずして、之等以外の地方民は一般に小麥、大麥、稷及豆類を常食とし、其の數亦寡少なからざるが故に、印度に於ける消費額及輸出餘力を窺知せんとするには、其の年に於ける米以外の是等食料品の收穫に對しても、相當注意を要するなり。

三 印度米作に於ける天候の影響

印度に於ける一年間の氣候を大別すれば、明瞭に乾濕の二季に區別することを得べし。乾燥季に於ける氣候風は、十二月中旬に始まり、翌年五年末に終るものなるが、其の間を更に二期に區別す。即ち十二月中旬より二月迄の間は、氣温全體に低く、北部に到れば比較的寒冷にして、三月より五

月に至る期間は温度高く、炎熱激甚なるの候なり。

六月より十一月に至る期間は先の乾燥季に對して、之れを濕潤季と云ひ、此の間に吹來る西南氣候風に依り、更に之を二期に區分せらる。即ち六月より九月に至る間は降雨頻りにして、雨水全印度を濕潤するを例とし、十月より十二月に至る期間は、氣候風に變化を來すこと多く、霖雨は漸次離散して印度の上空を去るものなり。

而して印度に於ける米作は、雨季中の降雨を利用して耕作せられ、印度人口三億有餘の内約七割、即ち二億餘は農牧者にして、其の大部分は米作に従事するものなるが、米作は一般に氾濫區域に行はるゝものなるを以て、若し其の時期に於て降雨なきが如き事あらんか、是等の米作地は殆ど枯死の状態化す可く、従つて降雨は印度に於ける米作に重大なる關係を有するものなり。

右の如く印度に於ける米作は、降雨に頼る點多きを以て、其の時期の早遅及び雨量の多寡は、直ちに作付面積の増減を左右するにより、其の消長の如きは年によりて變動ありて、著しき差異を生ずることは免れざるも、其の數年々増加の徑路にあるは明かなる所にして、現在に於ける其の面積は、印度全面積の約一割五分以上に當り、農耕地全面積の八割六分を占有す。

四 印度の稻の栽培法

次に稻の栽培方法としては先づ稻種を一晝夜水に浸したるものを苗代に蒔き、早きは五月、遅くも八月の頃迄には之を本田に移植し、十月より翌年三月の候迄に刈取るものにして、一年一回の收穫を普通とすれども、山手方面にありては、年二回の收穫をなす處尠からず。殊に灌漑便なる地にありては、何時にても植付作業を爲し得るを以て、其の植付時期の早遅に應じ、四季米を收穫し得る状態にあり。米田の耕作には一般に水牛を使用するを以て、牛糞は肥料となり、別に施肥をなさず。又收穫時期迄に除草等をなさず、刈取りたる穂は水牛に踏ませて粃を落し、粃の儘保存するを以て、印度に於ける米作は頗る簡單なるのみならず、其の費用も極めて低廉なりと云ふ。

五 印度の米輸出に對するビルマ州の地位

英領印度米産額を各州に就て見るときは、ベンゴール州を以て第一とし、次はビハール及オリッサ州、マドラス州及ビルマ州にして、是等主要米産州の産額は、英領印度に於ける總生産額の約七割を占む。而して英領印度と云へば、世界第一の生産國にして且つ輸出國たるの故を以て、直ちに生産過剰なるものと推慮するもの多きも、實は然らずして、是れを印度全般より見るときは、僅かにビルマ州及ベンゴール州を除く外は、何れも漸く需給相伴ふか、又は不圓滑なる實情にある州多く、只ビルマ州のみは、獨り年々歳々巨額なる數量の過剰を來すを以て、是れを海外に輸出するも

のにして、英領印度に於ける米の輸出數量の大部分は、ビルマ州の生産米に外ならず。而して是等は同州の貿易港たる蘭貢港より盛に輸出せらるゝを以て蘭貢米と稱せらる。従つて英領印度に於ける米の貿易港は蘭貢港を以て第一とす。

主要食料品たる米の不足に連年苦慮しつゝある我が國の如きは、將來益々此の輸出力巨大なる蘭貢米に頼らざる可からざるは、言を俟たず。而して緬甸米の取引に就ては、英領印度全般に亘る其の年の作柄、輸出餘力及び海外需要國の所要程度等を推知するの必要あるは言ふ迄もなき事なれど、其の輸出地なるビルマ州米の事情に精通するの一事は、更に緊要のことに屬するを以て、以下緬甸米につきて詳述せんとす。

六 緬甸米の作況

ビルマ州は熱帯より亞熱帯に跨るを以て、氣候は各其の地方に依りて差異あるも、主要米作地たるイラワダイ河下流地方は、炎熱頗る高し。今蘭貢に就て日中の平均溫度(華氏)を見るに、その最高なるは四月にして八十五度、一月は最低にして七十四度七分、一箇年の平均七十九度二分なり。

ビルマ州の氣候は一年を雨、乾兩季に區分し、五月より十月に至る期間を雨季、十一月より翌年四月に至る期間を乾燥季と稱す。而して乾燥季は更に二區分せられ、三月及四月は乾燥季中炎熱最も激しきを以て熱季と稱し、十一月より翌年二月頃迄は氣温一般に低下するを以て寒冷季と呼稱す。

今緬甸氣象表なるものに就いて見るに降雨量及び其の日數左の如し。

地名	四月乃至五月		六月乃至九月		十月乃至十一月		十二月乃至三月		合計	
	雨量	日數	雨量	日數	雨量	日數	雨量	日數	雨量	日數
キユウセ	六四三	一〇	一四七二	二四	七〇五	九	〇八九	二	二九〇八	四五
シユホ	五九六	二〇	二〇四二	三	五二八	九	〇五九	二	三三三	五三
マダレ	六七九	一〇	一九七五	元	七二六	一〇	〇六五	一	三六七	五〇
ミヨウ	六〇二	八	二五九	四	六五三	二	〇六六	一	三三九	七四
バツセ	一三四	一三	七五九	四	一〇三三	二	一三三	一	一三二六	二四
ツウゴ	九八三	一三	六六二	七	九五四	三	一三〇	二	八二八	一五
ラアン	一五二	一六	七五二	九	八四四	三	〇四	一	一〇〇一	三三
アキア	一四七	一三	七二八	九	一三六	三	一三七	二	二〇〇八	三五

ビルマ州に栽培せらるゝ稻には、春夏秋冬の四種ありて四季米と稱し、其の成熟の季節即ち四季によりて種類を異にす。州内廣く栽培せられ、就中下緬甸に於ける米産の中心地たる三角州方面に盛んに作付せらるゝは冬米なりとす。

冬米は六七月の候降雨を俟ちて播種し、十二月より翌年一月の間に收穫するものにして、ビルマ州に於ける全生産額の八割五分を占め、海外に輸出せらるゝは皆此の冬米なりとす。

夏米は三月の初に播種し、二、三週間の後之れを本田に移植するものにして、気温高き乾季の間に成育するを以て、多量の水を要す。成育期間極めて短く、六月の候に至れば速くも收穫し得るものなり。

秋米は乾季の終りなる四月の候、低地に播種し、七、八月の雨季中に收穫せらる。

春米は上緬甸地方、就中山岳部の灌漑に便なる地に耕作せられ、乾燥季に入りたる後、即ち十二月より翌年一月に亘りて播種し、五月の候に收穫するものなり。

次にビルマ州は地勢の關係により、上緬甸及下緬甸の兩州に區別せられ、海外に輸出せらるる蘭貢米と稱するは、下緬甸の産米なりとす。下緬甸に於ける耕作は、降雨の天恵に因りて行はるるものなるを以て、其の方法は頗る簡單にして、同地方の播種は五月より六月に亘りて行はれ、從來直播法によりしも、近來苗代を作りて移植法を爲す者漸く増加するに至れり。而して種子は播種前二日間位水に浸し置き、播種後の發芽を均等且つ迅速ならしむるに便せり。

耕作は雨季前に切り残りある藁を焼きて灰となしたる後、五月末の降雨又は氾濫せる河水を浸して田面柔軟となる六月の候を俟ち、水牛を役使して、數寸の深さに數回縦横に鋤起す。

苗は播種後一箇月位にして拔取り、婦女子の手によりて本田に移植し、苗株は一英反（我四反二十四步）に四萬五千株内外の植付を普通とし、植付後は降雨に放任して成育せしめ、除草作業を爲

すこと稀なり。

斯くて成熟するや早稻の如きは十一月に至れば夙くも收穫を始め得るものにして、一般に收穫の旺盛に行はるるは、十二月より一月の候なりとす。而して收穫は田面に一尺内外の藁を株に残して刈り、穂は適宜の大きさに束ねて、株上に放置し、數日間日光乾燥をなしたる後、其の上を水牛に踏ませて籾を落し、是れを自家若しくは其の附近に運搬して貯藏するものなり。

下緬甸に於ける米作が斯くの如く單純なるは、年々河水の氾濫に依り土地常に肥沃となるを以て、耕作の當時燒棄したる藁灰の外、別に肥料を施す必要なく、且つ強烈なる日光と豊富なる雨量に依り殆ど自然的に成育するによる。之れに反して上緬甸にありては排水竝に灌漑を行ふ地多く、又常に除草等の手入に努む。

斯くの如く緬甸に於ける米作の大部分は斯かる無限の天恵に頼りて行はるる状態に在るを以て、其の生産費等に至りては極めて低廉なり。

次に小作農は緬甸内到處に行はれ、殊に國有地にありては、全部小作制なり。其の慣行に普通、分益、定額の三方法あり。而して普通小作法と稱するは州内一般に行はるるものにして、耕作費の全部は小作人に於て負擔し、生産したる籾の一定割合を地主に交付するものにして、分益小作法にありては生産籾の一定割合を地主に交付し、耕作費の一部を小作人に於て負擔す。

定額小作と稱するは、約定せる小作料を地主に收納し、耕作費の全部を小作人に於て負擔するものなるが、此の方法は極めて稀にして特殊の場合にのみ行はる。

其他灌漑及び水田等に於ける水利費、種子代及び收穫費は、一般に耕作者に於て負擔するを通常例と爲すも、場合に依り地主之れが負擔を爲すことあり。尙ほ小作料の收納割合にありては、一般に收穫の五分の一乃至五分の二の範圍内に於て、收穫後直ちに穀を以て納入し、金錢を以てするは稀なり。

七 緬甸米輸出港としての蘭貢港

緬甸米の輸出は、主としてビルマ州に於ける蘭貢港よりせらるゝを以て、俗に蘭貢米と稱せらるゝに至れり。而して之れに次ぐ輸出港はバツセン及モールメインの兩港なるが、該二港よりの輸出は運賃其他の關係上蘭貢港に比して若干不利なる立場にあるを以て、本邦商人との取引は依然蘭貢港によりて行はれ、該二港との取引は、稀に日本棉花株式會社によりて行はるゝに過ぎざるなり。蘭貢港はイラワヂイ河畔に臨めるビルマ州唯一の貿易港にして、同河は遠く源を支那に發し、ビルマ州を東西に中斷して南に走り、流長實に一千六十哩に及ぶ大河なるが、此の天與の水便と四方に敷設せらるゝ鐵道の便とを利用し得るの地位にあるを以て、今や緬甸に於ける内外貿易品の大部分は、此の港に集中して、内外に分配せらるゝ状態なり。

從來印度に於ける貿易品の大部分はカルカッタ港に集中せるものにして、蘭貢港發展の如きは、極めて最近のことに屬す。即ち一八五二年の戦争により、ビルマ州の英領となりし當時は勿論、其の後永く同港は附近に産する米穀及チーク材等の少量輸出をなす微々たる一小港なりしも、其の後精米業の異常なる發展及び製油業の隆盛等に依りて、面目を一新し、遂に今日の如く印度に於ける有力なる貿易港となり、米の貿易に於ては印度諸港中第一位を占むるの殷盛を呈するに至れり。

次に本港より輸出せられたる、緬甸米の輸出數量に就て見るに、最近に於ける輸移出額年平均は二百萬噸乃至二百五十萬噸にして、内十萬噸はカルカッタ港に輸送せられ孟買及び其の他の諸港を経由して、印度内地に移出し、殘餘は東西の諸外國に輸出せられつゝあり。

次に仕向地國を一括して其の割合に就いて見るに、東洋方面にありては、總輸出額の二割乃至五割の需要にして、日本、海峽植民地、香港、爪哇、及スマトラ等を其の主なるものとす。

歐洲方面に向ひて年々總輸出額の二割乃至四割の輸送を爲しつゝありしが、大戰勃發の爲めに需要國の主位にありし獨逸及び埃匈國との取引杜絶し、及輸送船腹缺乏せしにより、一時輸出數量に著しき減少を來したるも、戦後に於ける食料品の世界的不足は茲に再び捲土重來の勢を以て、其の需要を増加し來れり。而して歐洲に於ける主なる需要國は、英本國、獨逸、埃匈國、佛國、伊太利、

和蘭等なるが、其の數量、仕向先別、及び其の他の事項に就きては章を改めて記述すべし。

八 緬甸に於ける米の産額

緬甸に於ける植付反別及産額は其年の豊凶により増減ありと雖、大勢より觀るときは未開墾地の開拓栽培法の改革により漸次増加の傾向にあり。最近八箇年間の作付面積及産額左の如し。

年	度	作付面積	産額
一九一八年	一九一八年	九、七〇〇、三八八	五、九二〇、一五七
一九一九年	一九一九年	九、五〇一、七八〇	五、四〇〇、七一六
一九二〇年	一九二〇年	九、八八四、五九六	六、〇一九、三八三
一九二一年	一九二一年	一〇、二六二、一五七	七、〇〇五、七四四
一九二二年	一九二二年	一〇、三八五、八七〇	六、二四三、七五六
一九二三年	一九二三年	九、九七〇、九五二	五、六七七、六四八
一九二四年	一九二四年	一一、〇五四、一八九	七、三六七、三三五
一九二五年	一九二五年	一一、一六四、五〇五	六、七二〇、四七三

備考 右噸數は玄米即ち粳より粳穀を除きたるものに對し計算す

右表により一九一八—一九二五—二六年度を比較するとき、植付反別百四十萬英反即ち一割四分、産額八十萬噸即ち一割三分餘の増加を示し居りて、實に顯著なる増加と云ふべし。

而して輸出餘力と云ふは、其の年度の生産額に前年度の繰越米を加へ、其の合計より國內消費高を差引きたる殘高にして、此の見積高は毎年政府發表の作柄豫想に附して發表さる。

尙ほ政府作柄豫想發表に就きて述べれば、第一回は十月中旬、第二回は十一月中旬にエーカレーチ數の發表あり。第三回は十二月中旬、第四回は一月中旬、第五回即ち最終豫想は、二月中旬にエーカレーチ數、米の生産噸數、前年度よりの繰越米高及び輸出餘力の發表ある事となり居れり。左に最近に於ける政府發表の輸出餘力と實際輸出高とを比較せん。

年	度	政府豫想輸出餘力	地	名	實際輸出高
一九二一年度	一九二一年度	二、二九一、〇〇〇	ラ	グ	一、八〇八、三六〇
			ア	キ	一八六、四九五
			バ	ツ	二一一、六〇九
			モ	ル	一〇四、六六一
一九二二年度	一九二二年度	二、六〇〇、〇〇〇	ラ	グ	二、〇五九、二二一
			ア	キ	一九二、〇八〇
			バ	ツ	一八八、七三九
			モ	ル	一二五、八〇二
計					二、三五七、〇一四

一九二四年度	一九二五年度
二、〇二五、〇〇〇	二、八二五、〇〇〇
ラ ン グ ア ン	ラ ン グ ア ン
ア キ ヤ ン	ア キ ヤ ン
バ ツ セ ン	バ ツ セ ン
モ ル メ ン	モ ル メ ン
計	計
一、九二六、五六七	二、五七七、一九九
一九〇、五一四	二、三七、七〇六
二三七、二八六	四一五、六九〇
一六七、八三〇	一七五、六三三
二、五二二、一九七	三、四〇六、一四八

緬甸に於ける米の年産額は約六百五萬噸にして、世界全産額九千萬噸に比すれば、約七%に過ぎざれども、國內の人口稀薄なるにより、年々海外への輸出余力は二百五十萬噸より三百萬噸に達す。之れを西貢の輸出年額百二十萬噸、盤谷の百萬噸に比すれば、同じく世界の三大米供給地と呼ばれる中にも、緬甸のみは他の追従を許さざる所にして、人口問題より食糧問題が各國に喧傳せらるゝに従ひ、世界米市場に於て、緬甸米は愈々重要視せらるゝに至るは論を俟たざる所なり。

九 粳

緬甸に於ける粳の主要産地は、緬甸を貫通するイラワダイ河に沿ひたる沃土にして、特に其の下

流デルタ地方は産額、品質共に緬甸第一なりとす。而して當地の粳は、其の耕作及收穫時期により左記

- 1. Spring Crop. 2. Autumn Crop. 3. Winter Crop.

の三種に分るゝも、Spring Crop 及び Autumn Crop は、産額甚だ僅少なれば、緬甸米は主として Winter Crop 即ち六、七月に於て降雨漸く酷ならんとするの候播種移植して、十一月より一月に至る乾燥季に收穫するものなり。故に新穀の出廻りは十二月中旬より始まり、一、二、三、四の四箇月間を最盛期とし、五月を過ぐるに及び漸次出廻高減少す。

(一) 運送による區別 Rail Paddy 及び Boat Paddy

蘭貢を中心として鐵道はプロムに至る Prome Line と、舊都マンダレー、更に溯りては支那國境に近き Myitkya に至る Mandalay Line と、Mandalay Line にて、蘭貢より約五十哩の Pegu にて分れて、南下する Moulmein Line とあり (此の外 Prome Line より分れてバツセンに至る Bassein Line 等あれども沿線米産多からず)。

是等鐵道沿線に産し、鐵道にて蘭貢に集る粳を Rail Paddy と云ひ、イラワダイ河のデルタ地方又は Pegu River 等の沿岸より産して、Gig 又は Cargo Boat にて蘭貢へ集るものを Boat Paddy と云ふ。Boat Paddy は雨量充分にして、地味肥沃の地に産するを以て Rail Paddy に甚だしく優り、

Boat Paddy 中にもイラワディ河下流のデルタ地方に産するものは最も良く、Delta Paddyとも稱し又蘭貢に於ては主として Kannangloe Creek に集るにより Kannangloe Paddy とも云ひ、高級米の精米には主として此の米を以てす。然れども同じ Boat Paddy の中にて Pegu River 沿岸地方に産するものは品質餘り良しからず Rail Paddy と大差なし。此の種は主としてフズンドン・クリーク (Poozundaung Creek) に集るを以て Poozundaung Paddy とも云ふ。然れども近來 Poozundaung Paddy は Kannangloe とは甚だしく値開きあるに付 Poozundaung Paddy を Kannangloe へ運搬するもの多く、従つて Poozundaung Creek へ集るもの減少せるにより、Kannangloe Paddy の品質も多少低下の傾向にあり。

尙 Delta Paddy の一部はバッセン (Bassein) 港に集り、バッセン米と稱せらるゝに至れるも、前述の如く品質良好なるによりキューバ等に於ては Rangoon Sq よりも Bassein Sq の方歓迎せらる。Rail Paddy については Prome Line の粳を最上とするも、通常 Rail Paddy と稱するは Mandalay Line Paddy をすものなり。

(二) 品質による種別

イ、ナツセン種 (Ngatsain) 及ナツキヤク種 (Ngakyak)

最も普通なるものにして緬甸米中半数以上は此の兩種なり。半透明にして白く、硬質なるも、

ナツキヤク種はナツセン種に比し細長く、多少透明に近き感あれども、此の兩種は交種或は混合して出廻るに付、判別困難なり。故に相當蘊奥を極めたる専門家と雖、判定に苦しむものありと云ふ。

ナツセン種類似のものにアキャブ (Akyab) 港附近の特産に Lason と稱するものあり。

ロ、ミードン (Meedong) 又は M D) 種

産額はナツセン及ナツキヤク種に次ぎ、緬甸米の約三割に達す。最近日本及び支那より需要増大しナツセン種との値開き益々隔大するに従ひ、ミードン種の栽培増加の傾向あり。支那人はミードン種をコレラ (敏黨) と稱し、古くより支那本國及び新嘉坡、彼南へ輸出したるが如し。

此の種も種類甚だ多く品質地味によりて異り、且つ交種雜種等により甚だしく複雑せり。尙同品にても生産地の異なるに従ひ呼名を異にするものあり。

本種はナツセン種に比すれば、米粒白黄色にして不透明なり。粒はフックリとして稍々橢圓形に近し。炊飯に際し水引充分にして、粒甚だしく長大し、甘味及び多少の粘り氣あり。鐵道沿線に産するもの極めて少く、殆ど Boat Paddy なり。

今主なるミードン種の種類及び類似米を擧ぐれば左の如し。

A サビネ・ミーダ (Zabine or Sabine Meedong)

産額多からざるも美味なる事緬甸米第一とす。

粳穀黒く、玄米も多少黒色を帯び、稍々小粒にて丸味を帯び、外觀良しからず、且つ甚だしく軟質なれば高き精米には適せざるなり。小米を充分抜き取りたるものを Meedong Bazaar と稱へ、當地食用最上米として市場に賣出さる。

B カウヂー・ミードン (Kangyi Meedong)

本種は純粹なるミードン種には非ざるが如し。大粒にて稍々半透明なり。玄米としては、粒大にして揃へるを以て見掛け良く、尙硬質且つ前記の如き半透明なれば、他のミードン種の如く乳白色にして艶なきものに比して精米済へするも、炊飯に際し水引悪く、粒増大せず、且つ味も芳しからずして、食用としては餘り適當ならざるも、見掛を貴ぶ輸出向としては却つて好評を博するには非ざるか。

C カナントウ・ミードン (Kannantoo Meedong)

一般の名稱に非ざるものゝ如く、最近カナントウに集るミードン種に對し、一部の米商が稱へ居るものゝ如し。小粒にして色多少黄色且つ半透明に近くして比較的硬質なり。高き精米に適し、軟質乳白色のミードン種に比すれば、色澤済えを以て、MDSQ 又は MD No. 2 (後記) に適するも、玄米としては小粒なるにより見掛け良ろしからず。

D ダラ・サイド・ミードン (Dalla Side Meedong)

一般の名稱に非ざる如し。蘭貢市の對岸 Dalla は狭少なる Creek なるも、精米業としては古き歴史を有し、現今の如くカナントウ・クリークに精米所の發達せざる以前より、小規模の精米所櫛比せり。此の地に於ける精米所は前述の如く小規模なれば、大規模に精米さるゝ輸出向には適せず。單に當地バザールにて賣買せらるゝ内地消費用の米を精米するに過ぎざる關係上、毎年ミードン種はカナントウより早く、且つ多量に出廻る傾向あり。此の地に集るものは、一般に乳白色の大粒米にして、軟質なれば高き精米には色済へず、粉吹き多くして MDSQ 又は MD No. 2 の精米には餘り適せざるが如きも、玄米としては大粒なれば見掛け良く、従つて將來日本向として歡迎さるゝには非ざるか。但し右はカナントウ・ミードンより赤米を多量に含有する傾向あり。

E カウキヤー (Kaukyi)

モールメン (Moulmein) 地方のみに産するミードン類似のものなり。米粒長大且つ白色にして、内地用として小米の少き Kankyi Bazaar (後記) に精米せられ、又 Europe Quality と稱して獨逸向輸出用にも精米せらる。

現在に於ては Kankyi S Q Quality Kankyi Europe No. 2 Quality 等の精米品は市場になきも、輸出先擴張の暁には、是等の等級も現れ來るべし。

F ナクレンヂー (Nacrenzie)

アキヤブ港地方の特産品にして、小粒にて肉付良く、臺灣に於ける丸粳米に酷似せり。

G カラヂー (Kalagyi)

上部緬甸特産品にして産額約二萬噸内外なり。普通のミードン種よりも稍々扁平硬質にして、外見最も本邦米に酷似せるにより、本邦にては日本産米と混米して使用する。尙粳の出廻りは十二月初旬より始まる。

H スガンヂー (Sugandhi)

粳の出廻時期は一月末にして、ナツセン種よりも細長く、西貢米の Pylon に類似するも、同品に比較し軟質且つ長大にして水色を呈す。

Prome 地方 Moumein 地方及び Eime 地方のみに産し、産額甚だ僅少なり。此 種は昔手搗にして市場に出でたるも、其の後小精米業者の手にて Small Mill Milling を以て市場に出づるに至れり。即ち前者を Hand Sugandhi と稱し、後者を Mill Sugandhi と云ふ。

現今取引さるゝものは Mill Sugandhi のみにして、取引に際しては現物を見たる上、小米の含有量、精米の高低によりて値段を異にす。普通小米は三〇%より三五%乃至三六%にして、皆田舎の小工場にて精米せられ、蘭貢の倉庫に積送し倉敷にて賣買せらる。

支那國境に近き上部緬甸の Bianco 地方より産するを Bianco Sugandhi と稱し、粘り氣、甘味等

甚だしく日本米に酷似するを以て、當地に於ける日本人間に賞味せられ、最近に於ては日本賣藥株式會社當地支店其他の手にて新嘉坡へ輸出せられ、同地日本人間にも賞味せらるゝに至れり。但し産額は現在に於ては餘り大ならざるなり。

I 糯米 (Putto Rice)

緬甸語にてカウヒン (Kanghuvin) と云ひ、粳は十二月中旬より出廻るも、精米取引は十二月中旬より始まる。

粒は細長く圓味を帯び、全く不透明の白色にして、緬甸各地に少量宛産す。Dalla Creek の小工場にては、舢舨サムバンに一艘二艘と僅かづゝ來るものを買ひ溜めて、之を Small Mill Milling に精米す。小米は三五%乃至三六%なり。

Puttoo Rice は取引單位他種米と異り、百籠七千二百封度にて取引せらる。

(三) 粳の取引状態

精米所が粳を買付くる方法に二種あり。即ち一は精米所渡、他は田舎渡なり。

精米所渡は、ブローカーが約定粳(約定なき場合は其の日の相場にて)を精米所へ持參するものにして、田舎渡は精米業者が粳買付エージェントを田舎に置きて粳を買付け、之を精米所へ送るを云ふ。

粃の建値は百籠單位にして、一籠は四十六封度なれば、四千六百封度を取引單位とす。之を精米するときは、粃殻其の他の夾雜物として消失するもの即ち搗減りは、一籠十二封度即ち約二六%なれば、一籠を精米して米、小米、糠を三十四封度得する譯なり。

一〇米

當地に於ける米の取引單位は百籠にして、玄米及び糯米は百籠七千二百封度とし、其他の白米は全部百籠七千五百封度にて取引さる。

米の種類は品種による區別と、精白の程度による區別とあるも、前者に就ては曩に粃の部に於て述べたれば、茲に於ては精白による區別を述べ、尙必要に應じて品種に及ばんとす。

粃より米に精白する順序を簡單に述べれば、先づ樋口に入れたる粃は、吸風器及び篩の目を通過して、砂、藁、土塊、其他の夾雜物を取去り Clear Paddy となりて粃白に入る。

粃白にて粃は割られて玄米、粃殻、碎玄米、及び Cow Bran 等となり、粃殻はファーネス (Furnace) に送られボイラーの燃料となり、碎玄米及び Cow Bran は袋に取らる。

粃殻を除きし玄米は玄米白又は半搗白 (Half white rice cone) に送られ、こゝにて半搗米となり (Big Mill Special Rice は此處にて精米を終る)、其の時出づる糠を No. 2 Rice Bran と云ひ、小米

はCクラスのものを生ず。

此の半搗米を白米白 (Full white rice cone) に送りて精白し、白米白より出づる糠は No. 1 Rice Bran 又小米は白米白の磨き程度によりて A B Number Class となる。

Small Mill 精米迄は掛けざれども、S Q 以上の精米にては羊毛皮の糠取りに掛け、小米を含む分量を適當にして樋口へ出して袋に取る。

緬甸米は其の精米の程度及び小米含有の分量により、次の如き品質等級を附せらる。

ナツセン種

イ、玄米 (Cargo Rice)

ロ、O S Q (Ordinary Straits Quality)

ハ、Law Milling Rice

ニ、B M S (Big Mill Special)

ホ、S M S (Small Mill Special)

ケ、S M (Small Mill)

シ、S M Q (Small Mill Quality)

チ、S Q (Straits Quality)

一〇米

- チ、Europe No. 3
 - リ、Europe No. 2
 - ヌ、Europe No. 1
 - ン、Europe No. 0
 - ミーザン種
 - イ、ミーザン玄米
 - ロ、Meedong Bazaar
 - ハ、Meedong Bazaar Quality
 - ニ、M D S Q (Meedong Special Quality)
 - ホ、M D Europe No. 2
 - ク、M D Europe No. 1
 - ト、M D Europe No. 0
- Putto Rice Mill Sugandhi 及 Small Mill Milling Kankyi 中、現今普通取引せらるゝものは
- Kankyi Bazaar
 - Kankyi Europe Quality

なり。

今前記各品質に就て説明すれば左の如し。

(一) ナツセン種

イ、玄米

玄米は籾白にかけて籾殻を取り去りたるものにして、尙左記の如き種類に分たる。

A 5 parts Cargo Rice (二割籾入玄米)

小米含有量 一〇%

當地に於ける支那輸出商 Chip Moh 及び Hong Gaung 等は Straits 又は支那向として多少取扱ひつゝあり。以前は印度にても需要ありたりと云ふ。

B 16 parts Cargo Rice (六歩籾入玄米)

小米含有量 一二%

C 32 parts Cargo Rice (三步籾入玄米)

小米含有量 一二%

B・Cの兩者は以前印度に輸出されたれども、今は殆ど取引なし。

D 2% Loonzain

一〇米

現今普通に玄米と云ふは殆ど此の種を指すものにして、含有量 Red Grain 12% Paddy 2% Coodie 10%—12%にして、小米の含有量は判然たる慣習なけれども、大體10%—13%見當にして、小米含有率に就ては取引に於て常に問題となるものあり。尙本種に於ける各含有率に就ては判然たる商慣習なく、各精米業者は各自の見立てによりて定め居るにより、約定書には必ず12% Red 10% Broken 等の如く明記する必要あり。

玄米は外觀によりて白米となる時の品質を知り難きときは、精米時に於て常に少量宛取りてホース・キャンバスに入れ、一方の口を堅く結へて、木板の上に百回計り打ち付けて所謂 Band Sample を作り見る要あり。之れダメーヂ・グレイン等を玄米精米に打込まれて渡さるゝ虞あればなり。

ロ・O S Q (Ordinary Strait Quality)

小米含有量 四八%

玄米を極く僅かに精白したるものにして殆ど玄米に近し。

獨逸にて再精白用として需要されしも、現今にては Loonzain 又は Low Milling Rice Small Mill の取引盛んにして、此の種は最近餘り取扱はれざるが如し。

ハ・Low Milling Rice

前述の O S Q より轉化したるものにして、最近當地 H. Hammand & Co. の手にて相當獨逸へ輸出されつゝあり。殆ど Clear Loonzain (粃無し玄米にして、精米は O S Q の程度、小米一〇%乃至一二%にて、粃の混入を許さざるなり(但し當地の精米所にては $\frac{1}{2}$ %位の粃の混入は止むを得ざるものと認められ居れり)。尙本種は極めて最近に現れたるものなれば、精米所より買付くる場合は、赤米及び小米の混入割合を契約書に嚴格に明記する要あり。

ニ・B M S (Big Mill Special)

此の種は、當地に於ける Burma Rice Merchant Association に於て定められたる十六精米所の特製品にして、B M S 約定に對しては特別の契約無き限り、此の十六精米所の中何れの精米にてもテンダーなし得るものなり。右十六精米所の名を擧ぐれば左の如し。

1. Bullock Brothers & Co.
2. Steel Brothers & Co.
3. Ellerman's Armean Rice & Trading & Co.
4. Anglo-Burma Rice & Co.
5. Japan Cotton Trading & Co.
6. Maung Hpo Tah

7. Maung Hpo Yee
8. Wor Moh Lone
9. Wor Lee Lone
10. Eng Pan Hwat
11. Sulaiman Hajee Bros & Co.
12. Amerchand Madhowjee & Co.
13. Khoo Beng Oh & Co.
14. Aik Chiang Beng & Co.
15. Eng Hong Bee & Co.
16. Maung Thwin & Co.

本種は、二三年以前當地にサッタ(Satta)取引盛なりし時分には、SMSと共に市場に於ける投機的目的物として取扱はれしものにして、現今に於ても他の白米及び玄米等は輸出業者が直接精米業者より買付くる事多きも、此のSMSは輸出業者が直接精米業者より買付くるは甚だ稀にして、精米業者は一見問屋業者の如き観ある印度人及び支那人の Speculator に賣却し、輸出業者は海外の需要あり次第此の Speculator より買付くるを普通とす。

前述の玄米にしても、又は Low Milling Rice にしても、是等は全部再精米の目的を以て精米さるゝものなれども、BMSは此の儘食料に供せらるゝものなれば、現在取引せらるゝ白米中最下等のものなり。従つて安價なるを第一要件とするに付、最も安き粳を用ひられ、殆ど Rail Paddy を以て精米せらるゝが故に、Rail Paddy の集散地たる Poozondanung Dawbong に於ける精米所の特精米たるの觀あり。

尙本種精米はOSQよりも強き半搗臼に掛け、玄米を少し剝ぎたる程度の精白にして、小米は四二の迄含む事を得。

ホ・SMS (Small Mill Special)

本種は當地カナントゥウに於ける十一精米所の特製品にして、此の精米所はBMSと同じく當地に於ける Burma Rice Merchant Association に於て決定せらる。

現今の十一精米所は、

1. Maung Hpo Tah
2. Maung Hpo Yee
3. Wor Lee Lone
4. Wornoh Lone

5. Maung Thwin
6. Eng Hong Bee
7. Eng Bang Hwat
8. Khoo Beng Ok
9. Aik Cheang Beng
10. Amerhand Madhow'ee
11. U Po Tet

なり(此の中 Amerhand Madhow'ee 及び U Po Tet を除きたるものを 9 Mills と稱し、先物取引に於て精米所を指定する場合は 9 Mills 又は 11 Mills と約定書に記入す)。

本種の約定にして特に精米所を指定せざる場合は、此の十一精米所の何れの精米品にてもテンダ―することを得ること B M S と同様なり。

此種の精米は半搗臼を通じたる後、白米白に掛けたるものなれば、精白の程度は B M S の比に非ずして、少しく精米良きは S Q 程度に及ぶものあり。小米含有率は四二%なり。

く、S M (Small Mill)

S M S (Small Mill Special)

S M Q (Small Mill Special Quality)

以上の精米所以外の小工場にて作る精米品を Small Mill と稱す。此種は精白相當に良好なれども小米の混入一定せず。小碎米の混入多き等の缺點あり。

最近は極めて小規模の工場に於ても S Q, M D, S Q 或は Europe No. 2 Quality の精米をなす傾向あれども、従前は小工場に於ては M D ならば Bazaar ナツセンならば Small Mill を作るを精々としたり。現在 Dala 等の小工場にて S Q 或は Europe No. 2 の精米をなすに至りては(但しダラクリークにも相當の精米所一、二あり)稍々心細き觀あり。

Big Millers 即ち Bullock Bros. Steel Bros., Anglo-Burma Ellermans, Arracan Rice Trading & Co., Japan Cotton Trading & Co. (日本棉花)等にて、Small Mill 同等品を精米するを Small Mill Quality と稱す。

Poozondaung Dawbong の S M Q は、S M S と B M S との間位に精米し、且つ粳の品質も不良なるを以て、S M S より五留比乃至十留比の開きあり。

カナントツ Big Millers の S M Q は、場合に依りては S M S より二留比半(百籠に付)見當の下鞘なれども、普通は同鞘にて取引せらる。

B M S と S M S は既に粳に於て品質を異にし、精米に於ても B M S は半搗米なれども、S M S は

白米にして、甚だしく相違し、B M Sの相場は現今に於てはS M Sより百籠當り（七千五百封度に付）二十留比乃至三十五留比の上鞘にあり。

S M Sは支那、爪哇、海峡植民地、印度及び歐洲等に廣く輸出せられ、當地に於てはB M Sと共に投機の目的を以て取引せらるゝにより、取引多く、従つて競争激甚にして相場は常に打たれ勝ちにして、S QはS M Sよりも二十留比乃至二十五留比の上鞘（日本に於ては一擔に付日印爲替相場百三十圓替として三十錢乃至三十五錢の鞘）にありて、取引上より云ふときは特殊米なるにより割高たるを免れざるも、最近S Qの品質低下により、S QとS M Sとの品質の差は甚だしく接近したる傾向あり。

尙獨逸の如く再精米をなす國に對しては玄米又はS M Sを輸出し、上級米の需要さるゝ所にはEurope No. 3 又はEurope No. 2を輸出せらる。

ト、S Q (Straits Quality)

右にJapan S QとEurope S Qの二種類あり。

四五年前日本が突然多量の買付をなしたる際、品質多少低き者にててもS QとしてPassさるゝに至り、此處にJapan S Qなるものを生じたるが、之に對し従前キューバ等に輸出されたるものを、Europe S Qと稱するに至り、Japan S Qよりも二留比半より、時に依りては五留比の上鞘に出づる

に至りたり。然れども最近日本より品質の苦情瀕々として起るに依り、日本向S Qも漸次Europe S Qを標準とするに至りたれど、今尙稍々もすれば日本向に對しては品質低きものを作りて、之をPassせしめんとするもの多きに付、買取の場合は明確にEurope S Qならざるべからざる旨を嚴命する要あり。尙Europe S Qの時價に相當する代價を與へざるべからざるが、其の間の呼吸に對しては營業者の常に苦しむ處なり。

本種は小米含有率三八%にして、精米はS M Sより高し、即ち先づ半搗白を通じ、次に白米白に掛け、尙Sheep Skin Polish (糠取り)にかくる要あるも、最近Rubber Polishの發達とSheep Skinの高價なる爲、Sheep Skin Polishに掛けざる處多し。尙S Qの主なる輸出先は日本及びキューバ等なり。

チ、Europe No. 3

主なる輸出先はAlexandriaにして小米二八%乃至三〇%精米は略々S Qと同等なり。

S Qと比較すれば、前述の如く精米程度は大差なけれども、小米混入少きため餘程良品に見受けらる。尙價格は普通S Qよりも百籠（七千五百封度）十留比より二十留比の上鞘にあり。

リ、Europe No. 2

主として歐洲へ輸出せられ、普通の精米にては緬甸米、最上はMillingにしてEurope No. 3より

も百籠當り約十留比高し。

小米含有量二〇%乃至二八%にして、精白及び糠取り充分ならざるべからず。

κ、Europe No. 1

本種は緬甸にて精米さるゝこと殆ど稀にして、精米及び糠取り工合 Europe No. 2 と同一なるも、異なるは小米含有量二%なる事なり。尙 Europe No. 2 以上の精米に於ては精米を多少上ぐるも、目立たざるに付、近來 No. 1, No. 0 等は Blue Powder を使用し着色する傾向あり。

λ、Europe No. 0

小米含有量一〇%—一五%迄とす。本種の特長は Special Polish 即ち最上の糠取を要することなり。尙 No. 1 及び No. 0 の兩者は殆ど取引なし。

(二) ミードン種

本種精米上の等級は略ナツセン種と同様なるも、茲には多少特質あるものに付述べし。

イ、2% Meedong Loonzain

粳二%、小米六%乃至一二%を含むミードン玄米にして、二、三年前より日本へ盛に輸出せらる。本種は赤米を殆ど含有すべからざる譯なれども、普通一%乃至三%の混入は已むを得ざる事とす。然れども近來粳の品質の低下により、赤米の混入するもの多く、甚だしきものは混入率八%に至る。

當地商慣習に於ては、碎米率及び赤米率確然たる決定なきにより、品質の苦情出づる場合は當事者の常に悩む所なり。

ロ、Meedong Clean Loonzain

二% Loonzain は二分の粳を含有するにより、日本にて再精米する場合甚だ手数を要するに付、粳を全然混入せざる玄米の需要ありしかば、當地邦商の手にて本種時價より二留比乃至五留比の高値にて Meedong Clean Loonzain を買付けて日本へ送付したるも、當地精米機にて全然粳を抜き去る事は極めて困難にして、二%位の混入は止むを得ざるものとされ居るに付、豫期の如き品質のものを得るに至らず。昨年は殆ど日本よりの引合なかりき。

ハ、Meedong Bazaar 又は Meedong Bazaar Quality

緬甸人の食用として精米さるゝものにして、小米を充分抜き取り含有量〇%—一五%にして賣出さる。精米程度一定ならずして輸出米とさるゝ Meedong Bazaar Quality 又は Meedong Special Quality 同様のもの又は夫れ以上に精米せるものあり。

緬甸にては田舎の小工場にて精米せしものを大、小の舢舨 (Sampan) に積み、Bassin wharf に持参し、毎朝「市」を立て品質精白の程度、小米混入の多少に依り値段を異にして取引せらる。

此の地にては食用としての品質を標準とするため、輸出用として一見美事なるカナントウのミ

ドン、即ち硬質にて半透明に近きものは歓迎せられず、寧ろ *Dalla Sika* の乳白色、不透明、脆軟なる種類、即ち甘味及び粘氣ありて尙炊事に水引充分にして増大するものを良品とす。

尙取引の際は、各舢舨の白米を見本臺の上に置き、その傍に炊飯せる飯を附して、炊きし後の状態を示す。之れを純粹なる *Meedong Bazaar* とす。

次に *Meedong Bazaar Quality* なるものあり。之は輸出用に精米されるものにして、小米三八%を含み、ナッセン種の *SMS* より稍々低き精白をなしたるものなり。本種は主として支那、爪哇、スマトラ、馬來半島等に需要せらる。

近來日本にて *Meedong Special Quality* を混米用として半搗米に混じ、精米しをる向あるも、若し其の目的にて *Meedong Special Quality* を輸入するものなれば、寧ろ *Meedong Bazaar Quality* を推薦せんとす、本品は値段の點に就て恰もナッセン種の *BMS*、*SMS* の如く、ミードン種にありては本種が投機取引の目的となるにより、常に相場を打たれ最も割安なり。

尙本種は季央以後はダメーデ・グレインにて精米する向あれば大に注意を要す。

ニ、*MDSQ (Meedong Special Quality)*

小米含有量 三八%

Meedong の種類によりては、*MDSQ* 又は *MD No. 2 Quality* として扱へたるもの、扱へざる

もの、或は全然不適當なるもの等あり。

MDSQ 以上の精米をなすには、硬質なるミードンにして多少半透明の觀あるものを可とせられ、之が爲カナントウのミードンを最良とせらる。

本種はナッセン種に比し粘り氣あるに付、精米に際して碎け少く、従來は小米含有量精々三〇%位なりとされ居りしが、最近高き精米を望むもの増加せるため、碎けも多くなり、現在に於ける普通の本種は小米混入率三八%位と看做さざるべからず。

本種は丸粒にて肉付良けれども、近來前述の如く小碎米も混入せるにより、ナッセン種の *SQ* 以上に見掛け悪し。

値段は *Meedong Bazaar Quality* より百籠當り(七千五百封度)十五留比乃至二十留比の鞘にあり(日本に於て一擔に付日印爲替相場を百三十圓替として二十錢より三十錢の鞘にして2% *MD 100-inzain* とは九十五錢乃至一圓十錢の鞘)。

尙脆軟乳白色のミードンは、精米後糠吹き多く精米も冴えざるため、ミードン種に就き了解なき地方への輸出は苦情を起す虞あり。

*、*Meedong Europe No. 2 Quality*

小米含有量三八%支那商の手により馬來半島に輸出するもの多し。最近日本よりも弗々引合あり。

本種精米には硬質にして高き精米に適する色澤良き粃を要し、MID No. 2 を精米する以上に粃を選ばざるべからず。

普通 M D S Q より二十留比乃至二十五留比の上鞘にあり。

ク、Wakama Meedong Europe No. 2

Dala 地方のワケマ(Wakama)地方より産するミードン種にして、他所産のミードン種よりも色澤特に美しく、餘り高き精米ならざるにカナントウ邊の MID No. 2 以上に美麗なり。産額多からず。

ト、Kalagyi Rice

カラヂーは、前述の如く日本米、特に蓬萊米及び朝鮮米に形状類似せるに付、一昨年より Kalagyi S Q Quality を緬甸白米の名に於て日本に輸出さるゝに至りしが、混米用として好評を博し居り、昨年は Kalagyi Europe No. 2 Quality の輸出を見るに至れり。

當地 Fairweather Richards & Co. 等は以前より本種に着目し、其の形状伊太利米に似たるを以て歐洲へ輸出しつゝありしが如し。

チ、玄米

當地邦商殊に日本棉花蘭貢支店にて Kalagyi Paddy を多く取扱ひしは一昨年末より昨年に始まり、其の特質等に就て詳細なる經驗を得たるは昨年なりと云ふ。而して昨年の成績によりて見るに

Kalagyi Paddy は甚だしき水氣を含み居るものなるが如く、永く貯藏するときは熱を持ちて色澤を失ふ虞あり。季央よりは Off Colour にて苦情を生じ、其上乾燥の曉には甚だしき缺斤を起し、仕向先にて缺斤(Grass seeds)の苦情をも出し居れり。その他の缺點としては粃に草殻の混入多く、之を取去る方法に苦心し居るも未だ充分なる成果を得ずと云ふ。然れども此の草殻除去方法を發見し、尙天日乾燥或は乾燥器にて十分乾燥し、粃拔玄米を作れば、朝鮮玄米又は蓬萊米の代用として、日本に好評を博するに至るべし。

リ、Kalagyi Bazaar Quality

小米含有量三八%にして Meedong Bazaar Quality は略々同じ品質なり。Kalagyi Paddy が熱を持ちて色澤を害ひ、Kalagyi S Q 又は Kalagyi No. 2 Quality の精米出來ざる場合に於ては、止むなく本品を作るより外なし。本品は地賣にするか、左もなくば上海邊に賣捌の途を講ずれば可なるべし。

ヌ、Kalagyi S Q Quality

小米含有量三六%にして S Q 精米なり。當地日本棉花工場にて精米さる。

ハ、Kalagyi Europe No. 2 Quality

小米含有量 二%

最近日本にては精白優秀にして小米の混入少き米を希望しつゝある傾向にあり。茲に於て乎、本

品の需要を見るに至れり。

本品は季央よりは色澤を害ふ事あれば、成るべくは季初の買付を良とす。

κ、Kalagyi Europe No. 1 Quality

精米程度は前述の Kalagyi Europe No. 2 Quality と同じきも小米含有量二〇%に止むるものあり。

ρ、Boiled Rice

主として印度へ輸出せらる。本品は日本の所謂糯(ホシヒ)にして約一晝夜水に浸したる粳を、十五分乃至二十分間蒸氣にて熱煮し、此の熱煮したる粳を天日又は蒸氣熱にて乾燥したる後に精米せるものなり。

右熱煮の程度に依り

1. Half Boiled Rice

2. Full Boiled Rice

の二種類あり。

尙精米の程度に依りては、

1. Boiled Ngatsain

2. Boiled Milchar

の二種類に別れ、1.はBMS程度の精米にして、主にコロンボ及コーチンに輸出せられ、2.はSL程度の精米にして乾燥の充分なるもの、主として亞米利加へ輸出せらる。品質良好なれども前者より普通百籠當り(七千五百封度)五十留比の上鞘にあり。精米白米を云ふ。更に種類によりて分類すれば、

1. Boiled Ngatsain

2. Boiled Long

3. Boiled Meedong

等あり。Boiled Long と云ふは Sugandhi 又は之に類似の Long Grain Rice をボイルしたるものなり。

尙是等 Boiled Rice の小米は約二〇%にして、乾燥は天日乾燥を良とし、蒸氣乾燥は悪臭を生ずる上に光澤悪し。

カ、Mill Sugandhi 及び Puto Rice

粳の部参照せられたし。

一一 碎米又は小米

一一 碎米又は小米

11 碎米又は小米

" 4	"	#7 ³ / ₄	"	#6 ¹ / ₄
" 5	"	#6		
" 6	"	#6 ¹ / ₄		

右を(篩の目の)時に直せば

No. 1	through	1/8	over	1/12
" 2	"	1/12	"	1/13
" 3	"	1/13	"	1/19
" 4	"	3/00	"	1/17
" 5	"	1/19	"	
" 6	"	1/17	"	

米の粒の大きさは約1/4吋なれば右を米粒に直せば、

No. 1	1/2	米粒	—	1/3	米粒
" 2	1/3	"	—	約1/3	"
" 3	約1/3	"	—	1/5	"
" 4	約1/3	"	—	1/4	"

" 5	1/5	"
" 6	1/4	"

右にて第一號小米、第二號小米、第三號小米の大きさは略見當付くも、第四號以下の碎米は右篩の目に比し、甚しく細小なるを以て、見本に付きて親しく識別せざれば概念を得難し。

第四號小米は第三號碎米を抜きたる残りより得るものなるが、第三號の碎米を抜きし残りには吸風器の關係上粗殼等混入するため、是等を再び吸風器にて處分す。而して其の前に大きさを一定する爲、少々大型の篩を用ふるにより第四號として生ずる小米は第三號より餘程小なり。

第五號、第六號等の小米は、第一、二、三、四の碎米を處理したる殘物より取り、混入せる粗殼を出來る丈除き去りたるものにして、粗殼小片等の混入物少きを第五號と云ひ、比較的多きものを第六號小米と云ふものにて、大きさは餘り嚴格に區別することを得ざるなり。

碎米の選別に特殊の設備を有する精米所にありては、第七號小米迄抜き居るものあるが、斯くの如く整頓せる精米所に産する第五號、第六號碎米は、粗殼の混入又は糠付きなくサイズも全く一定せり。

(三) 小米の種類

イ、Extra Broken Rice

11 碎米又は小米

高級米の精米に於ては、高き精白をなすと同時に、白米中に含む小米含有量を少くせざる可からざるにより、精米後碎米を非常に多く抜かざるべからず。故に品種によりては、第一號碎米以上の大きさのものも取り去らざるべからざるものがあるが、此の第一號碎米よりも大なる碎米を Extra Broken Rice と云ふ。

本種碎米は前述の如く高級米の精米より得るものにして、*Grain* の及び其れ以下の精米よりは取る事なきにより、精々 *Best Class* 迄なりとす。故に本種碎米種別に對しては、*A Extra*, *B Extra* と稱し、コーチン等より需要あり。

ロ、第一號碎米

前述 *Extra* と同様の理由により、第一號小米として一般に取引され居るは *A1*, *B1* なりとす。*A1* は主としてコロombo、時には孟買、歐洲等に輸出され、*B1* は主としてコーチン、マドラスに輸出せられ、時には歐洲よりも需要あり。

ハ、第二號碎米

A2, *B2* No. 2 *C2* 之れなり。*A2*, *B2* は歐洲に輸出せらる。*C2* は小精米所の製品に多きを以てサイズ一定せず。*No. 2* と稱して、*No. 3* の混入したるものを渡す等の場合あり。色白けれども、大小混入せり。

C2 は *B.M.F.* の精米の際抜くものなるが、元來 *B.M.F.* は低き精米なる上、四二%も白米中に小米を混する事を得るものなるに付、*C2* を抜く事稀なり。従つて市場に出づる事多からず。

第二號小米及其れ以下の小米はコーチン、マドラスに主として輸出せらる。

ニ、第三號碎米

A3, *B3*, *No. 3*, *C3* 是れなり。近時は *C3* の引合日本より多少宛出づ。當地に *Small Mill Broken Rice* と云ふものあり。本種は極めて小さき小工場の精米より出づる小米を全部唯一種の *Small Mill Broken Rice* として取扱はるゝものにして、*No. 1* 位の大粒も混入し居ると共に、*No. 4*, *No. 5* の如きもの或は扇風器の充分ならざる時は、糠も混する有様なり。色は普通白色なれ共サイズ不揃なるため値段安し。

ホ、第四號碎米

A4, *B4*, *C4* 之れなり。小米精選に特殊の設備なき精米所にては、碎米に於ける小米らしき小米は、第四號迄の小米なりとす。

第一號及び第二號の主なるものは、損割れの小米にて丸味を持ち居るもの集れるに依り、見掛け良けれ共、第三號小米よりも堅割れの所謂薄べたき小米、即ち當地にて *Split* と稱するもの多數混入せるため、第二號小米に比して甚だしく見劣りすれど、第四號迄になれば小さきため *Split* ある

も目立たざるを以て糠取り良く且つ揃ひしものは見掛け良し。殊にAの如きは精白充分なるにより美事なり。

尙本品は生産額大ならず、従つて大量取引行はれず。

へ、第五號、第六號、第七號小米

是等の小碎米のサイズに就ては、既に述べたる處なるが、斯くの如き小碎米に至りては精米の過程に於て、糠取又は籾殻抜き等の場合に、煽風器に吹き飛ばされて糠の中に這入り、此の糠の精製に於て篩ひ分けらるゝものなり。故に米糠を第一號、第二號と分けざる限り、精米の低きものと高きもの混同して出で来るにより、A5, B5, C5, 又A6, B6, C6及A7, B7, C7等に區別する事を得ざるべく、假令第一糠、第二糠と分類せる場合に於ても、極く少量宛の製産物を數種に分類するは、煩に堪へざるが故に、前述の如き處理法によりて分けたる小米を No. 5, No. 6, No. 7と稱す。斯の如き小碎米には米の目 (Carmel) 混入し且つ強き吸風器に掛くるときは全部吹き飛ばさるゝ虞あり。又籾殻の混入等あるにより小米としても良好なるものに非ずして、Cargo Broken Riceと共に鶏又は家畜の飼料に使用せらる。碎米に就ては以上にて略々盡したるが、尙

Puttoo Broken Rice

Sugandhi Broken Rice

Boiled Broken Rice

等稀に少量宛取引せらる。是等は Puttoo Sugandhi 又は Boiled Rice を精米するときを得る碎米にして、大工場にて精米する事極めて稀にして、全部小工場の産なり、故にその品質も一定せず、産額も極く少量なり。

(四) 碎米の品質に就て

A 白き事

同じ A Class に於ても用ふる籾に依りて品質を異にす。即ち蘭貢に於てはデルタ地方のナッセン種より得たる碎米最も色白く良好にして、色の冴へざる籾を以て精米したるものは、A Class の精米に於ても B Class と大差なきものあり。次にミードン籾の精米より得る小米は、ナッセン籾の精米より得る同クラスの碎米よりも劣り、値段に於ても相當の開きあり。尙カラデーに至りては色全く冴へざるにより、A Class のものは B Class と云ふ工合に一級宛下げて取引せらる。故に碎米の品質として第一に注意を要するは白さなり。

B サイズの一定せる事

サイズの大なるものと小なるものと混入して、不均等なるものは良質なるものに非ざるなり。即

ちサイズ一定して而も粒の大なるものを良しとす。尙第一號、第二號小米にありては、餘り堅割 Split の多きものは歓迎せられざるなり。

C 夾雜物なき事

草殻、土糠、粃殻等の混入せるものは不良にして、糠付きに就ては特に注意を要す。小碎米に於ては糠取り及精米相當良きものにも、永く貯藏するときは糠吹き多く、従つて蟲付きも多くなるを以て、貯藏品を輸出する場合に於ては餘程注意を要するなり。

以上の外品質には關係なきも、小米は袋に少しにても破損あるときは、ざら／＼とこぼれ落ち缺斤する事甚だ多きを以て、袋に就ては充分注意を要すべし。

一二 糠

一般に糠と稱するは米糠 (Rice Bran) を指すものなれども、廣く粃の中には粃白 (Huller) より出づる糠と、白米曰又は糠取り器 (Polish) より出づる糠とあり。前者を Cow Bran 又は Dust と稱し、後者を Rice Bran と稱す。其他 Boiled Rice の精米より得る糠を Boiled Rice Bran と稱す。

米糠の取引單位は百籠四千五百封度とす。Cow Bran は價甚だ安きものなるに付、百袋 (一俵百八十封度入) 建とす。

尙米糠の品質に就て注意すべき點左の如し。

- 一、永き貯藏のため熱を持ちて變色し赤褐色ならざるものなる事。
- 二、多少にても水氣を持つ糠を永く積重ねて貯藏するときは堅く固るものにして、斯くの如きものは不良なり。
- 三、夾雜物 (Sand & Silica) の混入せるものは不良なり。夾雜物とは土砂、粃殻、藁屑、Cow Bran 其他を云ひ、小工場にては Cow Bran の一部又は全部を混する事あり。かゝる場合は夾雜物の分量甚だ多し。倫敦にては二¹/₃の迄の夾雜物は認めらるゝも其れ以上混入せる場合は値引せらる。従つて當地に於ても契約には Sand & Silica not more than 2¹/₂% なる條項を加へ、其れ以上の夾雜物ありし場合は引取拒絶をなすか、又は値引にて引取らる。尙取引の場合は分析して其割合を知る事を要す。

イ、Cow Bran

粃殻の小碎物と多少の玄米糠の混じたるものにして、家畜飼料に用ひられ又肥料として田畑に入れらる。

ロ、No. 2 Rice Bran

半搗白 (Half White Cone) より得たる糠にして、BMS の精米より出づるものは全部 No. 2 Rice

Bran なり。但し普通の取引には是をも No. 1 Rice Bran と稱して次に述ぶる No. 1 Rice Bran と一様に取引せらる。

々、No. 1 Rice Bran

白米臼又は糠取り器 (Polish) より得たる糠なり。

高級精米より得らるる糠にして、半搗臼より生ずる糠を混ぜざるものなるに付、品質良好なり。

一般の取引にては、前者と混じて No. 1 Rice Bran にて取引せらる。

尙米糠の仕向地は、主として Liverpool, London, Hamburg 等にして家畜の飼料或は製油材料となさる。

ニ、Boiled Rice Bran

Boiled Rice を精米する時に得たる糠を Boiled Rice Bran と稱す。色は普通の米糠に比して甚だ黒く、容積大なるを以て普通の米糠は糠の麻袋に百八十封度入るも、Boiled Rice Bran を百六十封度以上入るゝは無理なり。殆ど小工場の製品なるを以て、夾雑物多く、普通 Sand & Silica の分量は七物にも達す。

現物の取引盛んにして、値段は普通の米糠より百籠當り十五留比安し。

一三 米糠の取引状態

當地に於ける米糠の取引状態には、蘭貢附近の精米所製品を精米所渡にて賣買するものと、田舎精米所の製品を蘭貢倉庫渡にて賣買するものとあるが、前者に關しては契約書の部に記したれば、茲には後者に就きて述べん。

田舎精米所の中、河筋にあるものはイラワディ汽船會社の Flat 又は Cargo Boat に積み、尙鐵道筋即ち Prome Line 及 Mandalay Line 並 Moulmein Line 沿線の小工場の分は鐵道便により、一様にマンダレー・ワーフ又はバツセン・ワーフに持參す。此地に米糠の取扱業者ありて倉庫を構へ、貨車及フラット、カーゴ・ボートの到着する毎に、一々現物を見たる上、賣主との間に値段を協定し、試貫の上平均斤量にて買取り、之を自己の倉庫に貯藏し置き、輸出業者の需要を見て賣出す。而して當地に於ける European Millers 等は自己の製品に對し、他の手を経る事なく直接自己の手を以て歐洲に輸出す。市中に米糠を賣出す事稀なるを以て、輸出業者は蘭貢附近の小工場製品を精米所渡にて買ふか、或は此の田舎小工場の製品を蘭貢の倉庫渡にて買ふものとす。

此の兩者の中にも、後者即ち蘭貢倉庫渡のものは、希望の數量を何時にても買付け得るにより、輸出業に取りては相當重要なものなるが、殊に注意せざるべからざるは品質の點にして、従來糠

の歐洲輸出に於て品質の苦情によりて破産せるもの尠なからざるなり。
 田舎の小工場にては、米糠を精製する設備無き爲めに夾雜物の混入多く、其れに一貨車二貨車と小口宛各所より集るものを混じてマツトを作るものなれば、品質不均一なり。加之、最近は此等米糠商間の競争激烈にして利益なく、而相場尻上りならざる場合には、諸掛り其他にて喰ひ込みを來す事多し。此の損失を品質にて補はんとし各「ロット」のバイルを作る。其のバイルの中に不良品、劣等品、Cow Bran 等を突込みて前渡するもの多し。之に對しては下積、中積の袋迄も崩して内部より見本を引く事、困難なれば品質選擇に於ては甚だ苦しむ所なり。

一四 蘭貢に於ける米の取引状態 (約定より積出迄)

(一) 買付

イ、ブローカー

當地に於ける米、小米、糠の取引は賣手、買手の直接取引稀にして、普通ブローカーを通じて行はる。當地に於けるブローカーたる資格は Rangoon Rice Broker Association のメンバーたる事を要すれども、別に當局其他の干渉ある譯にあらざれば、メンバー以外の者にもブローカーとして立つ者あり。

現在右協會の會員氏名を擧ぐれば左の如し。

Rowland Ady & Co.	D. R. Baklat
K Burjorjee & Co.	H. Soorajmull & Sons
Nowrojee Burjorjee & Co.	Tan Po Cheong & Co.
A. J. Cohen & Co.	J. E. Mack Hong Member
Dawn & Co.	S. D. Burjorjee & Co.
Halliday & Co.	M. P. Maricar
Hasain Hamadance & Co.	M. L. Maricar
Morrison & Co.	

尙當地に於けるブローカー仲介料左の如し。

1. On white rice of all description	$\frac{3}{8}\%$	to be paid by buyers
2. On white broken rice No. 1, 2	$\frac{3}{8}\%$	"
3. " " No. 3	$\frac{3}{8}\%$	by buyers & sellers
4. " " " 4 Under $\frac{1}{2}$ and $\frac{1}{2}$	"	"
5. On rice meal (Bran)	$\frac{1}{2}\%$	by buyers

て之を投賣りする事あり。即ち In Force の Milling Notice と Expired Milling Notice とは其の效力を異にし、當地にては Milling Notice が Expire するれば値が落ち、更に精米の濟みしものは又値が下るを普通とす。依つて精米業者はよく事情を察知して發行せざるべからず。

殊に BMS の投機師なる印度商及び支那商等は當地モーガル・ストリートに蝟集して、最後の一分間迄も Milling Notice を轉賣するものにして、尙相場昇騰氣味の場合に於て、多少の時間を與へんか、一枚の Milling Notice が數十人に Tender するゝ事珍しからず。其の上時間切迫し來るときは、彼等は精米時間の延期を申し出で、精米所に於ける其の煩堪ふべからざるなり。

(四) Milling Notice を受取りたる場合

最後の荷受主として Milling Notice を受取りたる場合には、左記の如き手續を要す。

イ、麻袋と縫糸 (Gunny & Twine) を精米時間に合ふ様其の精米所へ送る事

ロ、白米の約定は殆んど樋口渡なるを以て、品質を鑑定し得る使用人 (Rice Passer) を送る事

ハ、袋のマーキング、一袋へ取るべき白米の斤量を通知すること

ニ、火災保險を附すること、即ち受渡は樋口渡なるを以て、火災の危険は精米進行中より始まるが故に、萬全を期する爲めには、精米の開始する時間より附するを要すべし。

尙精米品質に就ては、取引上の苦情を防ぐ爲 Surveyor を附する事あり。これを Milling Surveyor

と云ふ。Surveyor は普通買手に於て附するものなれども、値段の甚しき變動あるとき又は荷受主苦情を附せんとする虞ある等の場合は、取引の圓滑を期する爲めに精米者に於て Milling Surveyor を付する事あり。

(Surveyor の資格に就ては後節 Joint Surveyor を参照せられたし)。

(五) 精米

最近蘭貢に於ては、精米所の増加と従來の大小精米所が、昔よりの小規模運轉より改築又は増築並に新式機械の設備に依りて大規模運轉に遷り精米能力を増加したるとにより、粃の産額に比して甚しく精米所の數過多となりたるの感あり。而も此等精米所の増築改築等は最好況時に行はれたるものなれば、投資高巨額となれるにより各精米所は能ふ限り多くの粃を買付け、多量の精米をなさざれば工費利廻りより見て多大の喰ひ込みを生ずる虞あり。茲に於てか粃の買付に激烈なる競争を起し、爲めに各精米所は採算難に陥り、之れを Cover せんが爲めに品質を低下させ、Parity を合せんとするが如き状態にあり、従つて最近は年々品質低下せるが如き傾向あり。

而して當地に於て精米したるものゝ品質 Pass の標準は、

1. Grain

2. Milling (精米程度又は精白程度)

3. Coody Separation (小米の含有程度)

4. Polish (糠取り)

にして之れを各項に就き説明すれば左の如し。

1. Grain

各等級に従つて精米には其れ相當の粗を用ひざるべからず。即ち甚しく劣等なるものを高級なる精米に使用するには、良質の粗に比して非常に高き精白ならざれば、同等の精米品を得る事能はず。爲に精米業者としては採算困難にして、尙斯くの如き犠牲を拂ひて精米するも、色澤、米粒等全く同等なる精米品を得るは極めて難事なりとす。

而して MD 種と N の種の値開き甚だしき場合に於ては、安きものを高きもの、精米時に混入する事あり。當地商習慣に於ては假令故意に非ざるにせよ、他種類を二五%以上混入する事は許されざるが、荷受主は二五%以下の場合に於ても精米時には充分なる注意を以て監視し、之れが混入なからしめ又は他の良質の粗を使用せしむる様努めざるべからず。

尙米は所謂 Season Quality の取引にして、季初に於て焼米 (Damaged Grain) 又は變色米 (Off Coloured Rice) の混入ありし場合には、受取拒絶すべし。然れども季央以後變色米又は焼米の避け得ざる時に於ては、苦情を附する事を得ざるものとす。故に精米時に於ける Grain に就き注意すべ

き主なる點は、

- a. 其の粗にて其の等級の精米をなし得るや否や
- b. Fair Average Season Quality なるや否や
- c. 他種類の米が過多ならざるや

等なり。

二、Milling (精白又は精米の程度)

白米白又は半搗白による搗きの程度、即ち強く磨くか、弱く磨くかによりて精白の程度を異にす。之れを Milling と云ふ。Milling が高ければ米の精白の程度の高きは勿論なり。

粗によりては比較的高き精米ならざれば希望の白さを得ざるものあり。一方良質なる粗ならば比較的低き精米にても容易に希望の品質を得るものありて、各級特有の精白状態は經驗によりて會得する外なし。

而して精米上必要なは一樣なる Milling にして、非常に高き精白の米と低き精白の米とが混入したるものは、一樣に低きものより見苦しきものなり。當地の Fairweather Richards & Co. にては田舎より Small Mill を買付けて、之れを蘭貢にて再精白せるも、高き精米のものと低き精米のものと種々雑多に混入せられ居り、且つ其の中には硬度及色合の異なる等ありて白にかゝりても一樣な

る精米を得ざる爲、樋口より出で来る米も一樣ならずして、精米に於ては常に苦情あるを聞く。ナツセン種は赤米多ければ、赤米の磨き程度を見るには精米程度を見る一方法なり。又ミードン種は赤米の混入少きに付、赤米にて云々する事を得ざるなり。尙 MDSQ は青色のあるうちは精米低きを示すものにして、高き精米に至ればブライトの黄色を帯ぶるか、美しき白色をなす。

而して一般に季初のナツセン種は精米後日數を経れば、精米時よりも白くなるものなるが、ミードン種に於ては精米時よりも精米後の方色褪せ、糠吹き多くなるにより、永く貯藏せざるを良しとす。然れども季央より季末に至りてはナツセン種と雖精米後に於ても、精米時より色冴ゆる事なし。

三、Coody Separation (小米含有量)

既に述べし如く、各等級米には之れに含み得る小米の分量決定し、其れ以上含める場合には引取り拒絶する事を得るが、各等級米に於て許され居る小米含有歩合の限度を示せば左の如し。

Europe No. 0 Rice	15%
Europe No. 1 Rice	20%
Europe No. 2 Rice	28%
Europe No. 3 Rice	30%
S Q (or MDSQ) Rice	38%

Me xdong Bazaar Quality Rice	38%
B M S or S M S Rice	42%
O S Q Rice	48%
2% Loonzine	13%

小米と雖碎米の全部を云ふに非ずして、米粒の $\frac{3}{4}$ 以上の碎米は米として取扱ふ習慣にして、且つ第三號小米及び夫れ以下の小米は白米中へ入るゝ事を得ざるなり。

而して碎米の歩合を見る方法に樋口より見本を取る場合と、袋より見本を取る場合とあり。袋より見本を取るときは抜き方に依りて小米の分量に非常なる差異を起すことあるを以て、抜く方法は周到なる注意を要す。即ち袋の口縫の邊には小米多量に集り、袋の腹には比較的少きものなれば、當地にて買付ける場合には口縫の邊より抜き、積付先等にて問題を起したるときは腹に差しを入れて抜くを要す。而して最も公平なる方法は四、五俵開きて之を能く混合して取るにあり。

當地にては約一呎許りの硝子管を百分に目盛したるものを用ふるも、之に米を取る場合に於て米の入れ方に依り種々なる結果を生ずるなり。即ち先づ袋又は樋口より取りし見本を容器に取りし際、容器を動搖すれば碎米は容器の底部に集り易きにより、容器内にて米を能く混合する必要あり。次に硝子管に入れる際に急に入れば米多く這入り、緩かに入れば小米の多く這入る傾向あり。

四、糠取り (Polish)

SQ 以上の精米には Sheep Skin Polish を以て糠取りをなすを普通とするが、最近 Rubber Polish の發達により、SQ には Sheep Skin Polish を用ひざる處ある事は既に述べたる所なるも、Europe No. 2 は今尙全部 Sheep Skin Polish を必要とするが如し。

而して Sheep Skin Polish と云ふは、羊の毛皮にて白米の表面に付著せる米糠を取り去る仕掛けにして、先づ大なる木製の太鼓を造り、此の表面に羊の毛皮を張り付けて、此の太鼓を回轉すれば米は此の太鼓と外側の Wire Net (金網)との間を通過して、糠を拭ひ取るなり。Rubber Polish と云ふはゴム片を半搗臼及び白米臼に張り付けて、糠を取り去る仕掛なるも、之れのみにては高級米の糠取りとしては充分ならざるなり。

日本に於ては、前述の糠取仕掛けをなさずして、特に化粧粉を用ふるにより日本向に對しては糠取り充分ならざる方却つて可ならんとの説あれ共、糠取り充分ならざるときは色澤冴へず、充分なる精米をなしたるに拘らず何處となくドス黒き觀あり。且つ蟲付き易くして、永き貯藏に適せざるにより、日本向と雖 Polish には充分なる注意を要すべし。

大體品質 *Pass* の標準は前述の如くなるも、以上の各項に照して精米業者は出來得る限り最低の品質を作らんとし、輸出業者は出來得る限り上等の品質を取らんとして争ふものにして、精米業者

も餘り窮するときは、此處に種々なる策略をなすものあり。今其の一、二を擧ぐれば

- (一) 精米中品質監督のため派遣したる買手側使用人を買収して不良品を作ること
- (二) 精米時に於ては袋数を約定数よりも少く作り置き、精米終りて買手側の者が去りし後新に不良米の袋を突込む事
- (三) 斤量を切る事
- (四) 袋をバイルする場合、中に不良品を入れて餽詰を作ること。
- (六) 品質を *pass* せる場合

以上各項に亘り品質監督の上 Contract Quality として *Pass* せられたるときは、代金を支拂ひ、Delivery order (%) を受取り、後日船積する場合には此の%と引換へて解船に積取るなり。而して他所精米所に永く貯藏するときは、抜き取らるゝ危険あり。然らざる場合に於ても缺斤を起すものなれば、精米後は出來得る限り速に積出さざるべからず。殊に小工場に於て MID, SQ 等を永く貯藏するは甚だ危険なりとす。

(七) 品質不良なる場合

品質に就ては精米中常に注意を與へ、Rice Passer の言葉のみにては充分なる効果なきときは、其の約定のブローカー又はサーベヤーに極力注意させて満足なる品質を得る様にすべし。威嚇的に

Reject し又は精米後 Reject して Joint Survey にかれたり、或はアンバイヤーの手を煩すが如きは良策に非ざるなり。故に先づ精米時に於て油断なく注意して品質を向上させる事に努め、猶ほ不足なる場合には充分なる考慮を廻したる上 Reject せざるべからず。

品質に就て最も困難なるは Reject するを得ず、さりとて満足なる品にも非ざる時にして、斯の如きは最も熟練せる精米業者に苦めらるゝ手なり。

次に荷受主に於て精米品の引受拒絶をなすときは、精米業者へ Rejection Notice を發送せざるべからず。右につき直接精米業者より買付けたる場合は直接發送すべきも Milling Notice のテンダーに依りて、數人の中間者あるときには、直前にテンダーを受けたる賣主に出さざるべからず。

尙前述の如く當地商習慣に於ては、精米品の苦情申立ては、精米中即ち At the time of Milling ならざるべからざるに付、Rejection Notice も速刻送附せねば、At the time of Milling に非ざるを理として受付拒絶に會ふ事あり。

Rejection Notice を精米業者が受取りて、精米を仕直すことを Re-milling と云ひ、精米業者に於て之を承諾せるときは問題なけれども、然らざるときは該精米品は契約の品質なるが故に、Reject に應じ難き旨を以て、Re-milling を拒絶する事勿論なり。此の場合精米所に於ては、該精米品保管中發生せる事故に對する危険負擔を避くる爲め、前記 Rejection Notice に對する返事の中に、必ず

"The Rice lying in our godown is Your Risk and Account"

なる文字を明記するを要す。

而して精米業者より Reject を受け付けざる旨申し來りたる時に、荷受主側に於て尙係争せんとするときはサーベーターを任命して、之を通知す。此處に於て精米業者側も外にサーベーターを任命し、共に争ふこととなる。之を Joint Survey と稱す。

サーベーターの資格は

Burma Merchants Association, 又は Rangoon Rice Brokers Association

のメンバーなれば、誰れにても其の資格を具有するものなれども、當地に於ける European Millers はよくブールのメンバー、即ち共同の利害關係あるサーベーターを擧げんとする傾あるを以て、かかる場合は極力利害關係者たる故を以て之を忌避し Independent Surveyer (後記)を指定せんことを要求すべし。

サーベーター料金即ち Survey fee は一件につき六十四留比にして、サーベーターの結果負けたる方が兩者分を支拂はざるべからず。結局負けたるときは、一件に付百二十八留比を支拂はざるべからざるなり。

而して Joint Survey に於て、兩者の意見が一致せざるときには此の兩サーベーター協議の上、精

米業者及び荷受主の同意を得て一名のアンバイヤーを任命し、此のアンバイヤーの意見を以て、最後の決定となす。

尚 Joint Surveyer の序に、當地サーベヤーの種類に就て述べれば左の如し。

イ、Milling Surveyer

前述の如く精米時に附するものにして、その資格は Joint Surveyer と同じ。

ロ、Independent Surveyer

協會員にして同時に検査を業務とするものあり。之を Independent Surveyer と云ふ。
現在に於ける其の主なるものを擧ぐれば

1. Morrison & Co.

2. Dawn & Co.

3. Halliday & Co.

4. D. K. Saklat

等にして、現時米の品質に就きて苦情を起したる場合には、是等に依頼するを普通とす。

ハ、Shipping Surveyer

當地に於ける米の輸出商習慣としては、輸出時の品質斤量を以て取引せられ、仕向地に著し

たるときの品質斤量に就ては責任を負はざるものなり。即ち Survey Certificate Final と稱して
輸出業者は輸出米の積出前 Shipping Surveyer を任命して、其の品質斤量を調査且つ Survey
Certificate を作成せしめ、此の Certificate にて仕向先よりの苦情を未然に防がんとするもの
にして、此の種サーベヤーの資格は Independent Surveyer なることを要するなり。

ニ、Individual Surveyer

歐洲向米取引に於ては、所謂 London terms に依りて限定する四大精米業者、即ち

Steel Brothers & Co.

Bullock Brothers & Co.

Anglo-Burma Rice & Co.

Ellerman's Arracan Rice & Co.

の支配人が各自サーベヤーする資格を有し、相互の輸出に對し交互にサーベヤーをなす事あり。
之を Individual Surveyer と云ふ。

(八) 蘭貢に於ける精米所名及び Corner Mark

前述の如く緬甸に於ける輸出米はバツセン港及びモールメン港より積出するものあれど、其の數量
極めて僅少にて大部は蘭貢港よりの輸出なり。従つて緬甸精米工場の主なるものは蘭貢に集中せ

- 5. Dalla No. 3 (Dalla Myingala Mill) (E T)
- 6. " " 5 (Emanjan & Friends Mill) (K G)
- 7. " " 6 (Koe Cheong Bin) (K G)
- 8. " " 8 Rice Mill (C D)
- 9. " " 9 (Abdul Barry Chowdry) (K G)
- 10. " " 11 (Ko Po Gyee Rice Mill) (")
- 11. " " 13 (") (N D K)
- 12. " " 14 (Ko Thein Zan) (P P)
- 13. " " 15 (P P Rice Mill) (Y C L)
- 14. " " 16 (Ye Cheong Lone) (S E)
- 15. " " 25 (Essof M. Mohd) (U B)
- 16. " " B 1 (Umba Rice Mill) (T D)
- 17. " " No. 30 (Thamadi Rice Mill) (U M)
- 18. " " 45 B (Uma Rice Mill)
- 19. " " 45 C (Myoma Rice Mill)

20. " " 1 Rice Mill

- 1. Steel Eywa Rice Mill (E Y)
- 2. Bullock Bros. Kennendine Rice Mill (B K D)
- 3. Fairweather Richards Kennendine Mill (F R)
- 4. " " Naikban Mill (F R N)
- 5. Suleyman Hajee Naikban Mill (S N)

ホカヤモト (Kanayot)

- 1. U Po Tet Myengala Rice Mill (U P M)
- 2. U Po Ka Rice Mill (U K)

イノヤノ (Insjin Side)

- 1. Diamond Rice Mill (D M)
- 2. Myawadahi " (A S A)
- 3. Unpoora " (A S A)
- 4. Ganshi " (Nobu Coomar Dass) (N C)

ポオンヤン (Poozandaung Creek)

- 1. Bullock Bros. Lower Poozandaung Mill (B L P)
- 2. Steel Bros. B C L Poozandaung Mill (S P)
- 3. Steel Bros. Lower Poozandaung Mill (S L P)
- 4. " Upper " (S U P)
- 5. Ellerman Arracan " (A P)
- 6. Bullock Bros. Upper "
- 7. Anglo-Burma Poozandaung Mill (A B P)
- 8. Ellerman Arracan Lower Dawbong Mill
- 9. " Upper "
- 10. Japan Cotton Trading & Co. (N K)
- 11. Steel Bros. Boiled Rice Mill

品質斤量の成績を知るためにはロット番號として、袋の上へ其の精米所名の頭文字を刷込めり。
之を Corner Mark と稱し、陸揚地に於ては殊に此のマークに注意す。

一五 輸出先及之を取扱ふ主なる航路並輸出當業者

當地税關統計により緬甸米の主なる輸出先及び輸出高を列擧すれば次の如し(但し各年度は四月一日より三月三十一日なれば、前述實際輸出高統計と一致せず)。

一九二〇—二四年度緬甸米輸出高連年比較表 (單位噸)

國 別	一九二〇—二二年	一九二一—二三年	一九三—二四年	一九四—二五年
British Empire United Kingdom	12,135	10,747	7,295	5,333
Aden & Dependencies	66	174	64	—
Mesopotamia	—	3,333	235	120
Bahrain Islands	1,231	226	500	502
Maldives	2,656	273	1,272	71
Ceylon	26,976	25,286	26,851	22,467
Straits Settlements	18,107	14,656	12,776	19,400
Federated Malay States & Borneo	4,354	1,516	2,455	3,764
Hongkong	22,377	30,596	10,779	7,865
Cape of Good Hope	273	22	483	463
Natal	5,242	8,451	9,440	5,993
Mauritius & Dependency	2,568	5,231	2,466	1,583
				七五

一五 輸出先及之を取扱ふ主なる航路並輸出當業者

Zanzibar & Pemba	六〇〇〇	八九四	一三〇〇〇	一七二〇九	八九三
Kenya Colony	二五七	三三五	一九五一	六七	九〇
Seychelles	八九	一三九九	六四	九三	七九〇
Canada via Atlantic Coast	—	七〇〇	一九五〇	二七〇	二〇〇
British West India Islands	—	五五七	八六一	三六九	一四〇九三
Victoria	三〇九	八七三	九四四	三九〇〇	七三七
Queensland	—	一五〇一	三三〇	八	一五〇〇
New South Wales	一五二四	四三八	一八三六	二二六一	一六六二七
New Zealand	四	—	四六	一五五	一三五
Fiji Islands	一〇〇	—	一四	—	—
Bombay, Calcutta, Madras Karachi & other India Ports	一〇九四	一〇〇一四	七〇四四	六〇七六	三九七五
Foreign Countries	—	—	—	—	—
Finland	—	二〇〇〇	一三三〇	一五七〇	—
Sweden	二二一〇	一〇〇〇	—	—	一九九七
Germany	五二九五	三二七四	三九四〇	四〇三七	三六七五〇
Netherland	三三〇〇	二八〇三	三二五	五二〇六	九一五二
Belgium	一〇六〇	二四九一	八八一	一四九〇	一五九二四
France	—	—	二二七〇	一〇五	八四五

七六

Portugal	二二二	一三〇〇	四五〇〇	四三三〇	一九九九
Switzerland	六三〇〇	—	—	—	—
Italy	二二一〇〇	一三〇六	三九〇〇	一〇〇〇〇	三三三
Austria, Hungary	一〇〇〇	—	六四〇	一五〇三	三五六〇
Austria	—	—	四〇〇	一三三	一八七〇
Fiume	—	—	四〇〇	—	一〇
Greece	一三六	—	八五	—	—
Turkey Asiatic	—	一四四	一五一	—	一〇〇
" " Red Sea	四四一	—	—	—	—
" " Persian Gulf	二二二〇	—	—	—	—
Musket Territory, Trucial Oman	一〇二	—	—	—	—
Other Native State in Arabia	—	—	二四三	—	—
Sumatra	五九〇八	三二四	四一六〇	五三〇八	八〇七七
Java	一九六五	一三三三	四七六	一三六九	四四九五
Celebes & other Islands	—	一三〇	二二〇〇	一一〇	—
Siam	一〇四	四三〇	一三三	六二六	六二八
Philippine & Guam	一五〇	—	—	—	—
China (Exclusive of Hongkong)	三六八	一七五九	一六七二	一五〇八	四七九五
Japan, Korea, Formosa	三三三	二四四	七九五	二九八	三七三三
Egypt	一五九〇	二四三	四三〇	三六三	八〇四

一五 輸出先及之を取扱ふ主なる航路並輸出當業者

七七

一五 輸出先及之を取扱ふ主なる航路並輸出営業者

七八

Portuguese East Africa	二六	一七〇	二五〇	三三	二五
Madagascar	—	—	—	三〇〇〇	—
U. S. A.	三	一〇〇〇	六九三	一九	一〇〇
Cuba	一七	六〇〇	—	八〇七	九二七
Argentine Republic	—	—	—	一七〇	七四
Haiti & St. Domingo	五	五〇	二六〇	五〇	五八
Others	三三	四〇	三三	一〇	二八
合 計	二〇五	二二七	二四四	二八五	二五〇

最近に於て年額五萬噸以上の輸入高を有する國を擧ぐれば左の如し。

- 一、孟買、甲谷陀、マドラス、カラチ、其他印度諸港(セイロンを除く) 六〇〇、〇〇〇
- 二、獨逸 四〇〇、〇〇〇
- 三、セイロン 二二〇、〇〇〇
- 四、海峽植民地 二〇〇、〇〇〇
- 五、日本 二〇〇、〇〇〇
- 六、爪哇及スマトラ 一五〇、〇〇〇
- 七、英國 八〇、〇〇〇
- 八、キューバ 九〇、〇〇〇
- 九、エザプト 八〇、〇〇〇
- 十、ニュージールランド 九〇、〇〇〇

之によりて観るに、英領印度はセイロン島を加へて八十萬噸の輸出をなす。之を同地方一九二〇—二一年度、一九二一—二二年度の百三十五萬噸に比し、異常なる減退を示せるは、同年度の作柄概して不良なりしによる。同地には白米としてはBMS又はSMS(後記参照)の輸出が主なるものなり。

獨逸は戦時一時杜絶せるも戦後輸入高の増加實に顯著なるものあり。一九二〇—二一年度の五萬噸より、一九二二—二四年度には四十萬噸に達し、一躍緬甸米需要地の第二位に上れり。

當地日本棉花の如きは獨逸メンガデルシャフトの盡力に依り獨逸市場へ販路開拓に努力する事數年に及ぶも、戦前獨逸人が緬甸に於て大精米所を經營せし關係上、當地に密接なる關係者を有するにより、殆ど手の付けやうなき有様なりと云ふ。

英本國向は當地 European Big Millers Fairweather Richards & Co. London Rangoon Trading & Co. 等の勢力盛んにして現在他の追隨を許さざる状態なり。

支那向は一九二六年九月末の統計によれば、上海、漢口等支那各港(香港を除く)に輸出せられたる額二十一萬噸に達し、此の中約一割即ち約三萬噸見當邦商により取扱はれたる模様にして、香港向は最近五箇年間の統計によれば一箇年間十萬噸を輸出せる記録あり。現在に於ては華商の獨專舞臺なり。

爪哇、スマトラ向は Meedong Bazaar Quality SMS, EMS 及び玄米を需要せられ、殊に B.M.S は印
 度向同様、同地向の主要輸出米にして、當地邦商は同地販路開拓に相当努力せるも、印度商 Adamjee
 Hajee Dawood R. D. Tata Hosain Hanadance 等の活躍盛んにして未だ充分なる成績を挙げ得ざる模
 様なり。

日本向は最近四、五箇年に於て頓に増加し、輸入高年額二十萬噸以上に上り、緬甸米需要地として
 は世界有數の中に數へらるゝに至れり。一九二一—二二年度に於ける輸出高二千五百萬噸と、一九
 二四—二五年度に於ける二十三萬噸とを比較せんか、僅か三箇年間に於ける増加實に隔世の觀あり。
 今後もミードン種が日本内地へ普及するに従ひ、愈々輸入高は増加すべく、不幸にして一旦日本に
 大凶作等出現せんか、其の食糧問題の解決は緬甸米に倚る事甚だ大なるべきは論を俟たざる所なり。
 尙緬甸米輸出に關係ある主なる汽船會社を擧ぐれば左の如し。

地方別航路名 代理店

歐洲向

- | | |
|-------------------|---|
| 1. Hendarson Line | } Steel Bros. & Co. 及 Bullock Bros. & Co. |
| 2. Bibby Line | |
| 3. Hansa Line | |

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 4. Holland British India Line | Trading Co. |
| 5. Ellerman City & Hall Line | Ellerman Arracan & Co. |

キューバ及び東印度向

- | | |
|---------------|---------------------------|
| 1. Nurse Line | Gillanders Arbutnet & Co. |
|---------------|---------------------------|

爪哇向

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1. Java Bengal Line | Gillandas Arbutnet & Co. |
| 2. Asiatic Steam Navigation & Co. | |

海峡植民地、支那、日本向

- | | |
|---|------------------------|
| 1. British India Steam Navigation & Co. | Bullock Bros. & Co. |
| 2. Indo-china Steam Navigation & Co. | Steel Bros. & Co. |
| 3. N. Y. K. Line | Ellerman Arracan & Co. |
| 4. O. S. K. Line | Santa & Co. |
| 5. Yamashita Kisen Kaisha | |

印度沿岸航路

- | |
|------------------------------------|
| 1. Srinidia Steam Navigation & Co. |
|------------------------------------|

一五 輸出先及之を取扱ふ主なる航路並輸出業者

アレキサンドリア向

定期船なく積荷相當集りし場合にのみ左記汽船會社にて取扱ふ。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. Lloyd's Triestics Line | Gillanders Arbutnot & Co. |
| 2. Venice Line | |
| 3. Bibby Line | |
| 4. Henderson Line | |
| 5. Blue Funnel Line | |

亞弗利加向

- | | |
|---|--------------|
| 1. Indian Africa Line | Graham & Co. |
| 2. British India Steam Navigation & Co. | |

濠洲及ニネー・シエラレオン

- | | |
|---|---------------------------|
| 1. British India Steam Navigation Co. | Gillanders Arbutnot & Co. |
| 2. Royal Packet Line
(to be transhipped at Batavia) | |
| 3. Burns Phillips Line (to be transhipped at Singapore) | |
| 4. Austral-East India Line | Ellerman Arracan & Co. |

尙當地に於ける米輸出業者の主なるものを左に列挙せん。

歐洲向

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. Steel Brothers & Co. | 8. Joseph Heap & Sons |
| 2. Bullock Brothers & Co. | 9. Hosain Hamadance & Co. |
| 3. Ellerman Arracan Rice Trading & Co. | 10. Beng Hwat & Co. (本年九月破産) |
| 4. Anglo-Burma Rice & Co. | 11. Graham Trading & Co. |
| 5. London Rangoon Trading & Co. | 12. R. D. Tata & Co. |
| 6. Japan Cotton Trading & Co. | 13. M M Ispahany & Co. |
| 7. Faisweathers Richards & Co. | |
- キユーバ及東印度向
- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1. Steel Brothers & Co. | 6. Japan Cotton Trading & Co. |
| 2. Anglo-Burma Rice & Co. | 7. Hosain Hamadance & Co. |
| 3. Bullock Brothers & Co. | 8. Beng Hwat & Co. (本年九月破産) |
| 4. London Rangoon Trading & Co. | 9. M M Ispahany & Co. |
| 5. Fairweather Richards & Co. | 10. Amerchand Madhwojee & Co. |

11. Ellerman Arracan Rice Trading & Co. 12. Joseph Heap & Sons

爪哇及スマトラ向

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. Adanjua Hajee Dawood & Co. | 7. Amerchand Madhowjee & Co. |
| 2. R. D. Tata & Co. | 8. Kheng Seng & Co. |
| 3. Hosain Hamadane & Co. | 9. Fairweather Richards & Co. |
| 4. Steel Brothers & Co. | 10. Chip Moh & Co. |
| 5. Japan Cotton Trading & Co. | 11. London Rangoon Trading & Co. |
| 6. Beng Hwat & Co. | |

日本及支那向

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. Japan Cotton Trading & Co. | 7. Bullock Brothers & Co. |
| 2. Steel Brothers & Co. | 8. R. D. Tata & Co. |
| 3. Mitsui Bussan Kaisha | 9. Hosain Hamadane & Co. |
| 4. Senda & Co. | 10. Chip Moh & Co. |
| 5. Anglo-Burma Rice & Co. | 11. Hoe Moh & Co. |
| 6. Ellerman Arracan Rice Trading & Co. | 12. Taik Kee & Co. |

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 13. Lee Chawn & Co. | 19. Sin Tai & Co. |
| 14. Beng Hwat & Co. | 20. Ban Hup & Co. |
| 15. Aik Chiang Beng & Co. | 21. A. J. Cohen & Co. |
| 16. Sin Eng Bryan & Co. | 22. Yong Kin Hwat & Co. |
| 17. Chin Aik & Co. | 23. Tyan Lee & Co. |
| 18. Chin Han Chon & Co. | 24. Eng Hong Hwat & Co. |

彼南及新嘉坡向

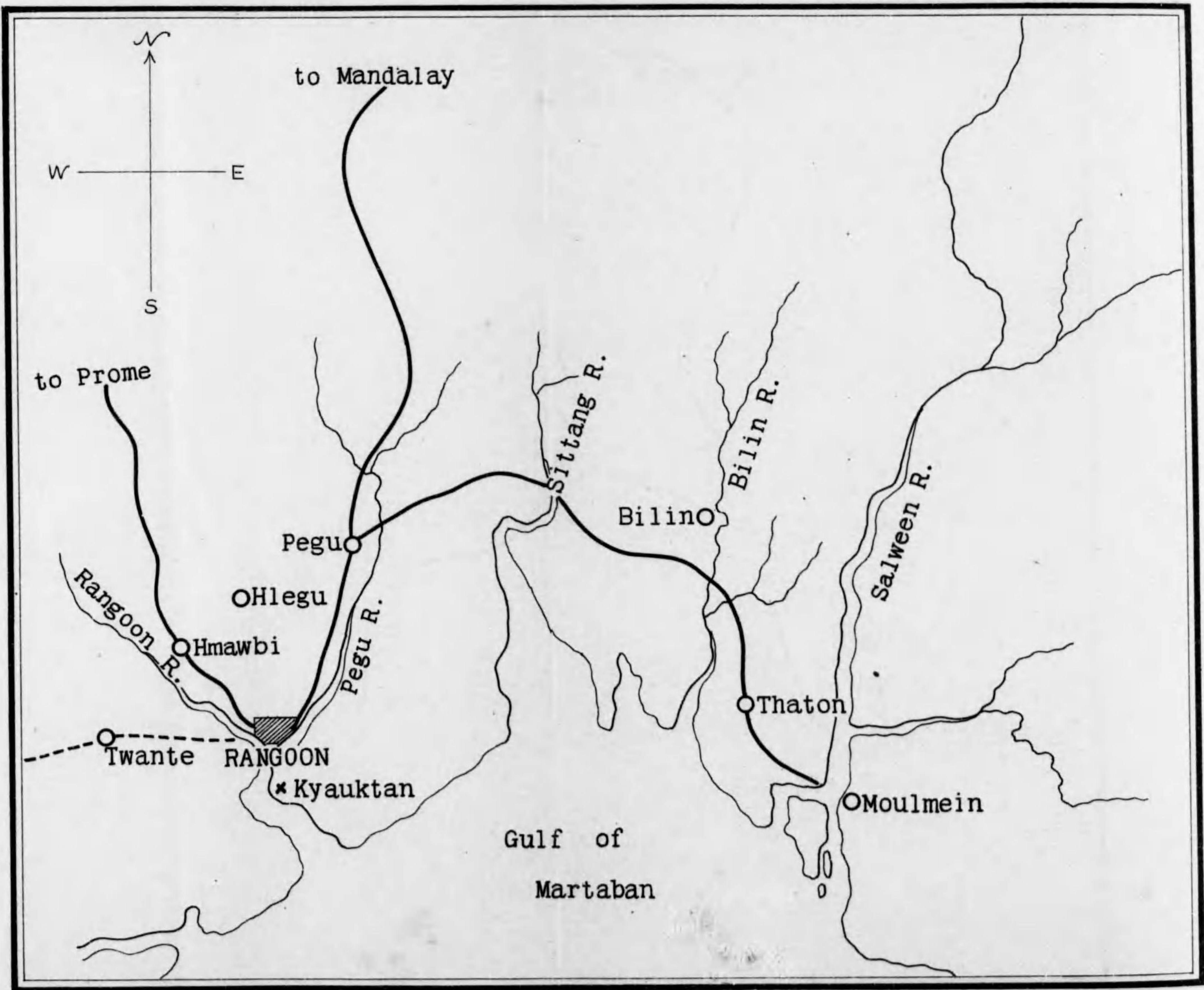
殆んど支那人の獨占舞臺なり。

印度向

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1. Amerchand Madhowjee & Co. | 7. Ranjee Mansee & Co. |
| 2. Takarsee Mooljee & Co. | 8. Hosain Hamadane & Co. |
| 3. Gangjee Premjee & Co. | 9. Nanjee Shanjee & Co. |
| 4. Herjee Gallabhai & Co. | 10. Dhanjee Bhojey & Co. |
| 5. Curim bhoj Laljee & Co. | 11. Vitaldas Purshotam & Co. |
| 6. Ranchordas Jegram & Co. | 12. Hasambhoj Premjee & Co. |

緬甸米終

附錄一 蘭貢附近地圖



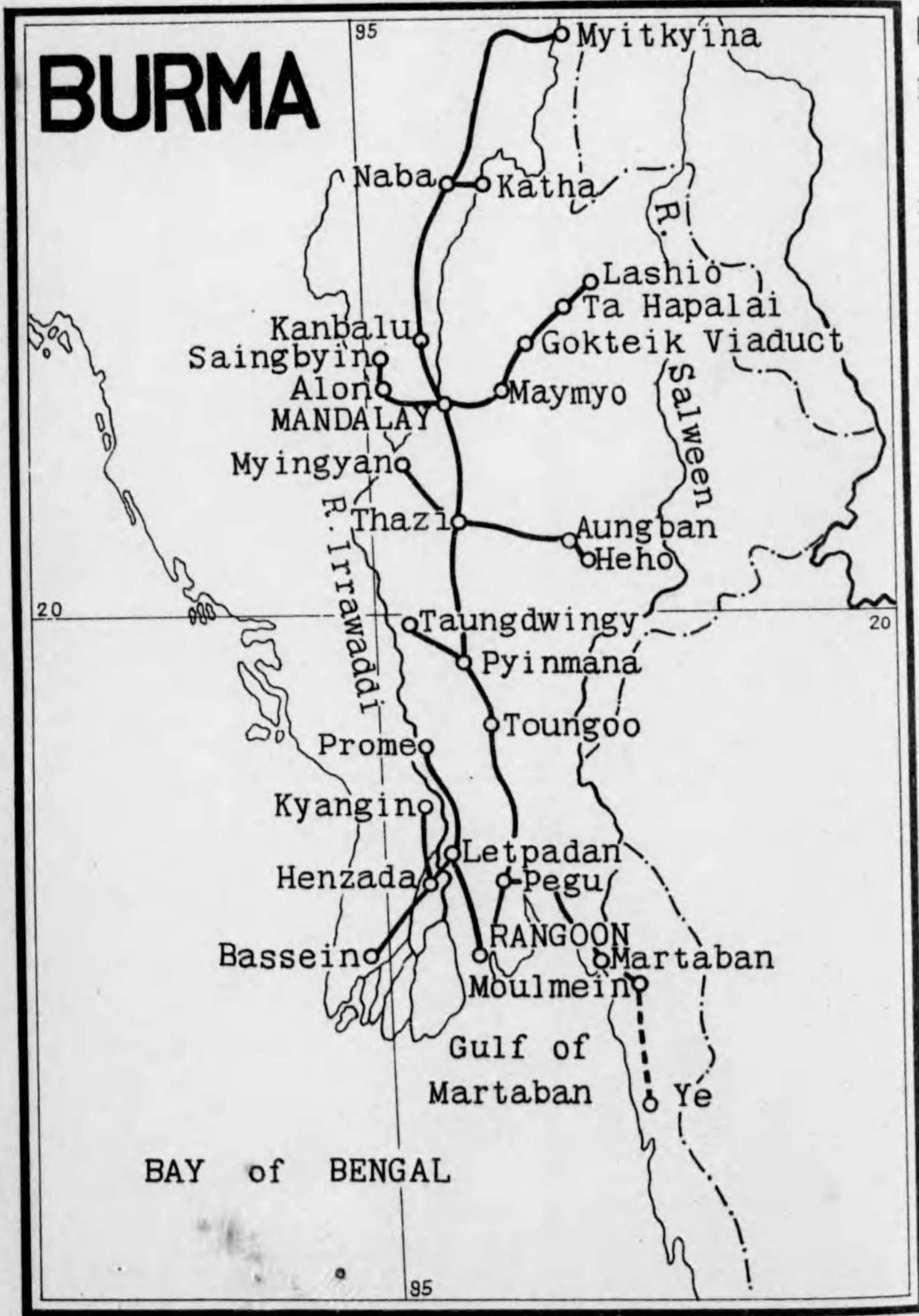
一五 輸出先及之を取扱ふ主なる航路並輸出業者

13. B M Kharwar & Co.

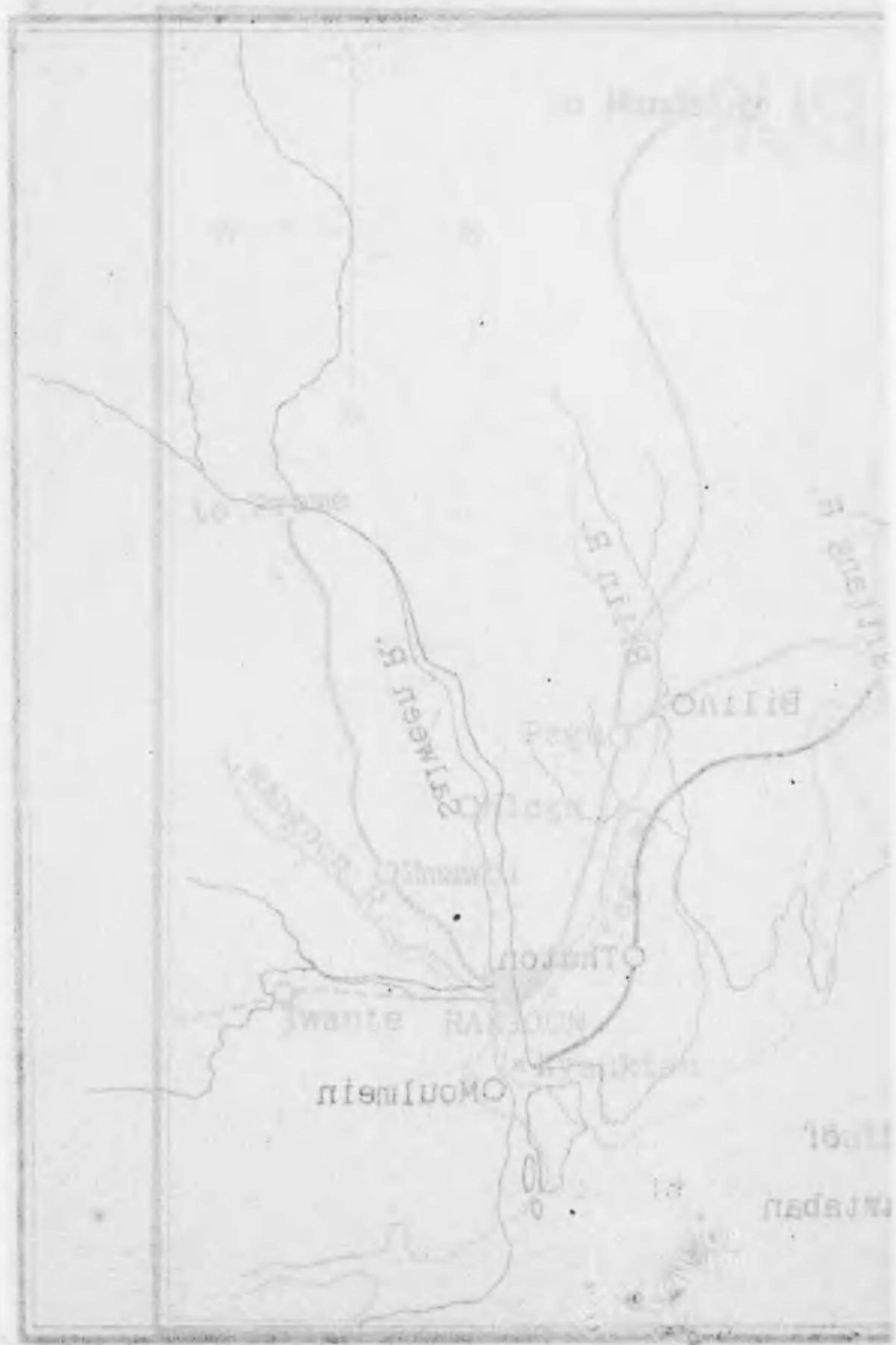
14. D Iekhansee & Co.

15. Kinnje Thakarsee & Co.

16. Phanjee Shanjee & Co.



附錄二 緬甸州地圖



終